
学級集団を高める中で、ひとりひとりの学習の成立をめざす
— 人間関係を基盤にした統合的教育の展開 —

第14回 全国バズ学習研究集会要項

昭和54年11月21日(水)・22日(木)

- | | |
|-----|---|
| 主 催 | 全国バズ学習研究連絡会
姫路市立白鷺中学校 |
| 共 催 | 姫路市教育委員会
姫路市立城南小学校
中播バズ学習研究会
姫路市立白鷺中学校PTA |
| 後 援 | 兵庫県教育委員会
全日本特殊教育研究連盟
全国公立学校難聴言語障害教育研究協議会
松下視聴覚教育研究財団 |

目 次

1. 会場、教室案内図	1
2. 研究集会日程	4
3. 研究経過	7
4. 研究主題	9
5. 授業視点説明	10
6. 学習指導案	
第1校時	13
第2校時	28
城南小学校 (第1校時)	37

1. 日 程

時	8:00	8:30	9:00	9:30	11:30	12:00	12:20	15:10	16:30	17:30
日										
11月21日(水)	受付	開会行事	第1公開授業	第2公開授業	昼食	(打合せ) 分科会	分科会	講演	連絡協議会 全国大会学習	懇親会
11月22日(木)		全体会	シンポジウム		閉会行事					

2. 会場案内 (案内図参照)

(1) 控 室

来 賓	白鷺中学校 校長室 (本館 2 F)
パネラー	” 会議室 (体育館 2 F)
司 会 者	” 特活室 (新館 2 F)
提 案 . 記 録 者	” 図書室 (本館 3 F)
教育委員会関係	” 生徒指導室 (本館 3 F)
校 長	” 生徒会室 (新館 3 F)
校区 . 記念事業関係	” 生徒指導室 (本館 3 F)
一 般 参 加 者	城南小学校 体育館
育 友 会 員	白鷺中学校 調理室、理科室 (本館 1 F)

(2) 開会行事 ————— 白鷺中学校体育館

(3) 公開授業

第1校時 —— 白鷺中学校、城南小学校、教育研究所

第2校時 —— 白鷺中学校

(4) 昼食会場

パネラー、司会、提案、記録～昼食及び分科会打合せ ——— 白鷺中学校オープンルーム (映画)

来賓、教育委員会関係～校長室、生徒指導室

一般参加者～城南小学校体育館 (映画)

育友会員～調理室、理科室

(5) 教育機器展示、図書販売 ————— 城南小学校体育館

(6) 分科会場

第 2 . 4 . 6 . 8 . 9 . 1 2. ——— 白鷺中学校

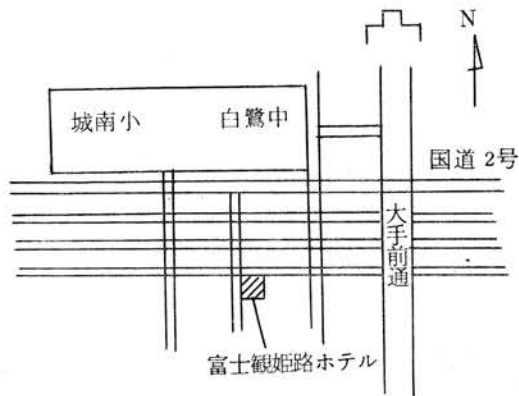
第 1 . 3. ————— 城南小学校

第 5 . 7 . 1 0 . 1 1 . 1 3. ——— 教育研究所、視聴覚センター

(7) 講 演 ————— 白鷺中学校体育館

(8) 懇談会場

富士観姫路ホテル



(9) 全 体 会
 シンポジウム
 閉会行事

————— 白鷺中学校体育館

3. 開会行事

開会のことば

主催者あいさつ

全国バズ学習研究連絡会長

永井辰夫

白鷺中学校長

祝 辞

姫路市長

吉田豊信

兵庫県教育長

森脇隆

姫路市教育委員長

田寺健三

名古屋大学名誉教授

塩田芳久

南山大学教授

松下視聴覚教育研究財団代表

伊奈輝郎

歓迎のことば

白鷺中学校PTA会長

藤井宏造

経過と概要

研究経過

道上昌幸

基調提案

山本亀夫

授業視点

福島達郎

日程説明

高磯忠實

4. 公開授業

中学校の部 9:40~11:30

第1校時 9:40~10:30					
学年	組	指導者	教科	主題・題材	場所
1	1	泥 豊	音楽	線路は続くよどこまでも	音楽室
	2	井端 保夫	数学	基本の作図	1 - 2
	3	藤本 清子	美術	構想画を描こう	美術室
	4	高磯 忠實	社会	天下統一への動き	社会科室
2	1	宮下 徹	体育男	バスケットボール	体育館
	2	埴岡 洋子	体育女		運動場
	3	上垣 泰博	英語	Lesson13 Part(1) Christmas Presents	2 - 3
	4	山本 亀夫	国語	堀池の僧正 一徒然草より	2 - 4
3	1	是川 治	英語	Lesson10 Otoko-san and the Straw Coat	教育研究所 L.L教室
	2	福島 達郎	国語	夏草 一奥の細道から	3 - 2
	3	松盛 清泰	技術・家庭 (男子向き)	電子部品のはたらきと 使用法	3 - 3
	4	加藤 妙子	技術・家庭 (女子向き)	幼児の保育	家庭科室
	5	坊垣 正博	理科	電磁誘導	教育研究所 理科室
難聴2	天野 一美	セブンタイム	第2校時に同じ		難聴教室

第2校時 10:40~11:30				
学年	組	指導者	教科	主
1	3	菊地恵 躬子	道徳(徳和)	ヒロシ
3	3	下房 正英	道徳(徳和)	足指に
精薄		竹谷由紀子	技術 生活単元学習	カレー
1	4	上山 恭三	セブン タイム	生徒相互 と教科 と個・個 をはか
2	4	浜側 孝		
3	2	河上 忠俊		
難聴1		多根 貞武		
全	校	止揚の時間	人間関係を基盤とし をはなれて設定し 間である。 各自が学習コース 性に応じた方法・場 個別化を考えなが	

小学校の部 第1校時 9:40~10:25

学年	組	指導者	教科	主題・題材	場所
1	2	富田てる子	国語	たぬきの糸車	1 - 2
2	2	高馬 翠	社会	ゆうびんのしごとをする人々	A V 2
3	2	赤垣美智子	国語	モチモチの木	3 - 2
4	1	福本 和代	算数	面積(カードの広さ)	A V 1
5	3	阿部 和夫	算数	単位量あたりの大きさ	5 - 3

学年	組	指導者	教科	主
6	1	津野 敬子	理科	ほのお
難聴 5,6年		沢田 映子	国算 語教	わらわ
精薄		小笠原一恵	生活	火の用心
言語		三木やす子	ことば	カード

5. 講演 21日(水) 15:10~16:30

演題 「人間と教育」 講師 東大寺管長 清水 公照

6. 全体会 22日(木) 9:00~9:30

7. シンポジウム 22日(木) 9:30~12:00

「今日の教育を考える」

名古屋大学教授 田浦 武雄

名古屋大学名誉教授

大阪大学教授 三隅 二不二

南山大学教授 塩田 芳久

8. 閉会行事

謝 辞

城南小学校長
中播バス学習研究会長

谷口 勉 二

白鷺中学校校舎完成記念事業
実行委員長

水野 昭 二

閉会のことば

止揚の時間

1:30	
題・題材	場 所
マのうた	1 - 3
生きる	3 - 3
ライスをつくろう	竹谷学級
私が毎日の生活反省の復習を通して、個 人と集団の統合止揚 する。	1 - 4
	2 - 4
	3 - 2
	難聴教室
、学年・学級の枠 をゆとりと充実の時 を に選定し、能力・適 性所・機器等により らバズ学習を進める。	別 掲 (右 側)

教科	コース名	主 な 内 容	学習場所	担当教師
国 語	文学 古典コース	平家物語、百人一首、文学史等	図 書 室	福 島
	創 作 コ ー ス	詩、俳句、作文、感想文等	図 書 室	(菊 池)
	基 礎 コ ー ス	漢字、文法等	3 - 1	山 本
社 会	地 理 コ ー ス	郷土、地形模型、風俗等	社会科教室	林 天 野
	歴 史 コ ー ス	郷土史、城、古墳、人物史等	"	高 磯
	公 民 コ ー ス	時事問題、市政、貨幣等	3 - 5	(下 房)
数 学	基 礎 コ ー ス	計算が主で数字ゲームもする	オープルーム	(河 上)
	応 用 コ ー ス	自作の問題を解く、できるものは 高校程度の問題もする。他に数字 ゲームもする。	1 - 2	(浜 側) 井 端
理 科	第一分野コース	化学実験、物理実験	理科第一	坊 垣 (多 道) 上
	第二分野コース	動物、植物、細菌、天体、気象	理科第二	
音 楽	音 楽 コ ー ス	器楽を中心にする。	音 楽 室	泥
美 術	絵 画 コ ー ス	油絵、水彩、素描、はり絵	美 術 室	藤 本
保 体	基礎体力コース	トレーニング、徒手体操	体 育 館	宮 下
	応 用 コ ー ス	バレー、ソフト、サッカー、鉄棒、 平均台、跳箱	運 動 場	(上 山) 埴 岡
技 術 家 庭	工 作 コ ー ス	木工、金工、模型等、すべて手作り	技 術 室	黒 坂 松 盛 加 藤 (竹 谷)
	調 理 コ ー ス	献立、カロリー、実習	調 理 室	
	洋裁手芸コース	洋裁、刺しゅう、レース編	家庭科室	
英 語	英 語 コ ー ス	会 話	2 - 1	上 垣
		文学童話	2 - 2	西 川
		基 礎	2 - 3	是 川

題・題材	場 所
	理 科 室
つの中の神様	難聴教室
心	精薄教室
遊び	言障教室1

9. 分科会

分科会名	研究主題	研究内容	分科会番号	校種	会場	パ		
						司	会者	
Ⅰ 学習指導の改善	学力と人間関係の統合	学級集団の中でひとりひとりの学習の成立をはかる	1	小	城南小 体育館	四宮 恒夫 (徳島 元福島小校長)	尾上 茂夫 (姫教委 課長)	
			2	中・高	白鷺中 家庭科室	梶田 稲司 (春日井前東部中校長)	前田 義夫 (神戸 野田高校)	
Ⅱ 教育機器の活用	学習と指導に教育機器を活用する	学級集団の学習の効率を高め、ひとりひとりの自主学習をたすけるために教育機器の活用をはかる	3	小	城南小 AV-1	高馬 正則 (姫路 前城南小校長)	本位田 孝人 (姫路 荒川小校長)	
			4	中・高	白鷺中 オープンルーム	塚本 利郎 (姫路 教育研究所長)	塚元 実 (姫路 東中校長)	
Ⅲ 基礎的学力・体力の定着	基礎的な学力・体力をつける学習方法	個人差に応じた学習の方法と場をくふうする	5	小	研究所 演習室	松岡 護 (姫路 前船場小校長)	鬼本 浩 (香寺 中寺小校長)	
			6	中・高	白鷺中 2-1	木谷 陽 (広島 豊高校長)	桜井 保 (姫路 飾磨中部中校長)	
Ⅳ 新教育課程への移行措置	ゆとりのある充実した学校生活をめざして	ゆとりのある充実した学校生活であるための運営と場(オープンルーム)を考える	7	小	研究所 LL教室	金治 晴治 (竜野 小宅小校長)	鎌谷 嘉道 (姫路 安室小校長)	
			8	中・高	白鷺中 図書館	新田 正彦 (広島 豊中校長)	藤花 春夫 (姫路 大白書中校長)	
Ⅴ 評価	学習と指導の評価	授業の中で学習と指導に評価を生かす	9	全	白鷺中 2-4	望月 和三郎 (東京 小平3中)	宿南 勝之助 (姫路 旭陽小校長)	
Ⅵ 学級集団の育成	個と個、個と集団の止揚	セブントタイムの充実 自己実現のある学級集団	10	小	研究所 大会議室	白井 仁 (豊川 前中部中校長)	中川 豊 (姫路 八木小校長)	
			11	中・高	研究所 視聴覚教室	成瀬 信一 (土岐 泉中校長)	山崎 千代松 (高知 前奈半利中校長)	
Ⅶ 生徒指導	非行生徒をつくらない教育	落伍者をつくらない教科学習 基本的生活習慣を身につける教科外活動 生徒指導と補導のあり方	12	全	白鷺中 体育館	鈴木 武士 (竜野 前教育長)	得平 重夫 (姫路 教委)	
Ⅷ 障害児教育	障害をのりこえ社会に適應できる人間の育成	障害児と共に学び、共にたかまる集団の育成 障害に応じた教育方法と場のくふう	13	全	研究所 第1・2 研修室	森 寅三 (宍賀 前五個荘小校長)	藤本 貞治 (姫路 砥堀小校長)	増田 良一 (姫路 教委)

ネ ル 討 議		パ ネ ラ ー	記 録 者
問 題 提 案 者			
石部清和 (滋賀五箇荘小) 撰 肇 (姫路八木小) 安積収 (姫路城南小)	梶田正己 (名古屋大) 瀬良賢一 (姫路峰相小校長)	常陰友子 (御国野小) 田中照子 (広峰小)	
住吉光彦 (広島豊中) 石川恵美子 (広島豊高校) 山本亀夫 (姫路白鷺中)	太田信夫 (筑波大) 越智昭孝 (広島豊高校) 吉田武男 (姫路教委)	内海康治 (山陽中) 井端保夫 (白鷺中)	
宮崎淳右 (長崎城山小) 吉岡晃 (広島豊小) 平井均 (姫路城南小)	小森孝彦 (京都女子大) 水野建 (大垣荒崎小) 鹿浦昇 (姫路教育研究所)	横野雅代 (太市小) 安積悦明 (城陽小)	
藤本福雄 (兵庫洲本実高) 原田守 (姫路東中) 河上忠俊 (姫路白鷺中)	織田守矢 (名古屋大) 岡本一士 (広島豊高校) 伊奈輝郎 (松下通信・主任研究員) 山本剛 (姫路余部小)	佐々木彰一 (大白書中) 浜側孝 (白鷺中)	
進藤研一 (青森・五所川原栄小) 小林靖子 (姫路安室東小)	中野靖彦 (愛知教育大) 山田進 (長野白田小) 和田直 (姫路教委)	堀江宏実 (荒川小) 岩井美穂野 (高岡小)	
赤羽寿行 (春日井松原中) 金原さみ (東京保谷中) 堀義明 (姫路東中) 是川治 (姫路白鷺中) 上山恭三 (姫路白鷺中)	鹿内信善 (大同工業大) 高井二千六 (広島本郷工高) 黒田耕司 (姫路教委)	川島堆司 (高丘中) 埴岡洋子 (白鷺中)	
加藤一成 (春日井篠木小) 田中雄介 (姫路御国野小)	水越敏行 (大阪大) 沢中悟 (兵庫県教委)	岩崎輝代 (糸引小) 松下映子 (旭陽小)	
熊野徹 (兵庫神大付属明石中) 森本正雄 (姫路山陽中) 高磯忠實 (姫路白鷺中)	塩田芳久 (南山大) 西田正則 (兵庫県教委)	井上律子 (夢前中) 松盛清泰 (白鷺中)	
丸山正克 (豊川千両小) 斉木秀弘 (春日井西山小) 小島幸彦 (土岐泉中) 坊垣正博 (姫路白鷺中)	速水敏彦 (大阪教育大) 小谷和男 (姫路教委)	森下久枝 (安室小) 藤本清子 (白鷺中)	
庭瀬利男 (旭川忠和小校長) 市場郁也 (姫路八木小)	杉江修治 (名古屋大) 大西忠雄 (姫路、安室東小校長)	井上古糸 (八木小) 山田正智 (網干西小)	
安藤寿彦 (土岐泉中) 乾和夫 (寝屋川9中) 小林三洋 (春日井藤山台中) 石原憲 (春日井東部中) 高橋雅人 (姫路林田中) 福島達郎 (姫路白鷺中)	市川千秋 (三重大) 清水快雄 (岐阜県教委) 鎌田裕明 (兵庫県教委)	開延子 (錦磨西中) 菊池恵躬子 (白鷺中)	
望月民雄 (広島豊浜中) 三宅正夫 (名古屋旭丘高校) 森清則 (姫路東中) 宮下徹 (姫路白鷺中) 道上昌幸 (姫路白鷺中)	小石寛文 (神戸大) 舟越和吉 (新潟関屋中) 内藤勇次 (県立教育研修所 課長) 八木武士 (姫路琴丘高校長)	山口輝彦 (広畑二小) 上垣泰博 (白鷺中)	
岩田鎮人 (春日井勝川小) 橋本ゆみ子 (姫路城南小) 多根貞武 (姫路白鷺中) 竹谷由紀子 (姫路白鷺中)	蔭山英順 (名古屋大) 藤森春樹 (姫路藤森耳鼻科病院長) 村津末雄 (兵庫県教委) 山本巖 (県立姫路養護校長)	柳内翠 (城北小) 井口盾 (城南小) 天野一美 (白鷺中)	

1 研究経過の概要

1 バズ学習研究の動機

昭和51年4月ある日の午後の職員室。数名の教師が雑談をしているうちに、A教諭が「学年始めというのに授業にならない。なんとかならないだろうか。このままでは1年間が心配だ。」という。話の対象になっているのは、50年度から話題になっていた生徒達のいる学級である。この話をきいていたB教諭が「50年度に続いて同じ人が担任しているのだから、どうしなければならぬかは予想しているだろうにな。」という。

このような話題をまいて出発した51年度であったが、夏休みが終り2学期にはいって、体育大会・文化発表会と学校行事が続くにつれてますます授業はしにくくなっていったようである。やがて同じ悩みが1年生からもいわれ始め、1つの学年だけの問題とはいえなくなってきた。毎日の授業がスムーズにできなくなり、教室などの備品や施設も痛みがめだつようになった。もちろん、このような事態が51年度になって突然発生したものではない。何年も前から非行問題の蓄積とそれに対する不適切な指導、表面化することへの恐れがとらせた一時的な陰弊策などに遠因があることは見逃せない。このような事態が契機となって「何とかしよう」という空気が一部の教師の間に芽生え、短学活や部活動の見直しに手がけたのである。

しかし、「生活態度とか、行動よりも進学率を高める、それも有名校といわれている高校にひとりでも多く入学させることによって、少々学校の中が荒れていても容認してもらえる」という考えが一方にあった。当時の職員室には、「進学率」ということばに抗し得ない空気もあったのである。このような状況の中で1年生の問題行動はエスカレートし、多発するようになってようやく学級活動や学級指導に教育活動の力点をおくようになった。

昭和52年度は、年度始めから全校が「バズ学習の研究」にとり組むことになった。「生徒の生活行動の改善」と「学力の定着・向上」という2つの目標を設定した。しかし、依然として「個」の主張が強く、「集団の一員としての個」という意識がないから「自分さえよければ」ということで、周囲の状態には無関心であった。「個」の目標と「集団」の目標をどう統合・止揚させるか。ここに悩みをいだきながら過ごした52年度であったが、生徒の問題行動はさらにエスカレートし、(止揚の教育 第2部 生徒指導 の項参照)、校内では処理しきれなくなって関係機関の協力を求める事例は増加の一途となった。そこで、2学期以降は終りの短学活を一層充実強化することとなった。特に2年生にその重点をおいたが、一度崩れた生活は容易には立ち直らなかつたように思う。このような状態では、「個」の欲望に負けてもう一つの「個」の目標を失ったといえるだろう。

昭和53年度は、普通教室の全面改築ということで年度始めからプレハブ生活となり、54年2月末まで約10カ月続くことになった。3年生は1年生のときから話題の多かった学年であつて、年度始めから心配されていたが「学校の立て直しは3年生から」ということで、「52年度

以上に短学活・学級活動の充実を」という学校・保護者あがでの取り組みの結果、2学期以降は激減し、年度の後半はほとんど事件らしい事件はなくなった。

以上かんたんに過去3年間を振りかえり、今回、研究集会を開催するようになった動機を述べてきたが、53年度を終って気づいたことは、「学力や進学」という「個のねがい」も「学校という社会の人間関係が崩れていては満足されない」ということであった。今の社会では矛盾しているように思えるこの二つの条件も、学校という場の社会的存在意義から考えるならば、矛盾を肯定して放置するわけにはいかない。「放置する」ことは「学校教育を放棄する」ことにつながるといえよう。今の学校が抱えている悩みは「この矛盾をどう統合し、止揚するか」ではないだろうか。本校の場合も過去にいわれた有名校意識をささえていたものは、越境入学と生徒数の多さから生じた有名高校への進学者数の多さであって、真実は力がついたわけではない。即ち人間関係をよくし非行を少なくすれば進学率が悪くなり、逆に進学率をよくしたら非行がふえるのではない。学力と人間関係の統合・止揚に努力してはじめて学力も上り非行もなくなっていくのである。

2 昭和52年度以降の研究経過

昭和52年度 研究課題

「ひとりものこさず ひとりひとりを伸ばす学習」 — ゆとりときびしさの教育 —

はっきりとバズ学習を打ち出しはしていないが、底流にはその考え方をおいた。

学習指導では、支えあい励ましあう学習集団の育成により、基礎学力の定着をめざし、そのために、教育機器を活用して落ちこぼしをなくすることの模索をはじめた。

学級指導では、ひとりひとりに生き甲斐を持たせ、学級集団からはみ出た生徒をつくらぬ学級づくりに努力し、支えあう仲間づくりに小集団をとり入れるように研究をはじめた。

- 6月 短学活の問題点について学年や全員で研修
- 7月 生徒の意識調査及び調査集計と分析をし、全員で研修
- 8月 先進校見学（長野県筑北中学校） 教育環境について研修
- 9月 学習指導の改善 を全員で研修
- 10月 生徒指導上の問題点 を全員で研修
- 11月 学習集団を基盤とした指導法の改善 を全員で研修
全国バズ学習研究集会に参加
先進校見学（鳥取市立北中学校） 学習指導の改善について研修
- 12月 先進校見学結果の報告と全員による研修
- 1月 教育工学全国大会に参加（徳島県鳴門市）
- 2月 小集団を生かした短学活の指導 について全員で研修

昭和53年度 研究課題

「基礎学力の定着をはかり、ひとりひとりをみづめ伸ばす教育」

—学習の効率を高めるとともに人間関係を育て、自己訓練のできる人間の育成をめざす—

個と個、個と集団 の対立と相求という矛盾に満ちた人間理解の上に立って、相互作用・行動変容（学習理論とグループダイナミクス理論の統合）・集団過程（個人の発達と集団の成長）・教育技術（教育機器、学習集団の組織、評価等）を重視しながら教育活動のもつ認知目標と態度目標の同時達成をめざした。

52年度よりは、さらに、バズ学習導入への一歩を進めた。具体化としては、県立嬉野公民研修所を利用した集団宿泊訓練（1泊2日）を学年毎に全学年実施し、生活バズを取り入れた短学活の充実をはかった。また、校内では、バズ学習形式による学習指導法の研究を全職員で行った。

- 5月 集団宿泊訓練の持ち方 について全員で研修。 集団宿泊訓練実施。
- 6月 短学活、生活バズの持ち方について 学年・全員で研修
- 9月 学習指導の改善法（バズ学習による学習遅滞生徒の防止） を全員で研修
- 10月 学習集団を基盤とした指導法の改善 について全員で研修
全国バズ学習研究集会に参加
- 11月 生徒指導上の問題点と後半の指導上の留意点 について全員で研修
先進校見学（奈良県新庄中学校）
教育工学全国大会に参加（奈良県）
- 12月 先進校見学結果の報告と全員による研修
- 1月 3学期の生徒指導のあり方 について全員で研修
- 2月 小集団を生かした短学活の指導 について全員で研修

昭和54年度 研究課題

「学級集団を高める中で ひとりひとりの学習の成立をめざす」

—人間関係を基盤にした統合的教育の展開—

53年度の反省をもとに研究課題・研究内容を設定した。すなわち、

- (1) 学力を伸ばす指導と人間関係を高める指導を統合・止揚する。（学力と人間関係）
- (2) 個人の学習過程に関する事実や原理と集団相互作用の過程の事実や原理を統合・止揚する。
（個人的学習と集団的学習）
- (3) 個人の発達と1つの学習集団としての学級の望ましい発達を統合・止揚する。（個人発達と集団の成長）

の三点をおき、ひとりひとりの学習の成立と自己実現をめざしている。

- 4月 研究主題の検討と組織づくり
 生徒の実態調査（知能・標準学力検査、学級の意識調査）
 教育機器の設置計画立案
 教育機器の使用技術の取得
 生徒会活動の点検と組織の見直し（活発化への手だて）
- 5月 基礎学力，学習過程，評価の研究と実践
 教育機器の運用計画立案と実践化
 人間関係の育て方の研究と実践
 セブнтаイムの実践研究（各学年）
 障害児を含む交流学級における授業研究
 障害児学級におけるバズ学習の研究と実践
- 6月 授業研究（各学年，各教科）とバズ学習推進上の問題点（講師 塩田芳久先生）
- 7月 セブнтаイムの実践研究（各学年）
 理論研究（学級集団の育成と学力の充実をはかる指導のあり方）
- 8月 1学期の反省
 理論研究
 実践・理論研究のまとめ
- 9月 授業研究（各学年 各教科）
- 10月 セブнтаイムの実践研究（各学年）
 授業研究（各学年 各教科）とバズ学習推進上の問題点（講師 塩田芳久先生・梶田正己先生）
 先進校見学（岐阜県土岐市立泉中学校）
- 11月 授業研究（各学年 各教科）
 止揚の時間の実践研究
 セブнтаイムの実践研究
 第14回 全国バズ学習研究集会 } 講師 南山大学 塩田芳久先生
 県指定 基礎学力推進校中間発表会

3 今後への課題

53年度末に校舎の鉄筋化が完成し、54年度から新しい白鷺中学校の歴史が始まったことを機会に、学校のあるべき姿を求めて取り組んだバズ学習であるから、経験の深い諸先輩の先生方から見れば、幼稚そのものであろうとは思いますが、目標を持って教師が教育活動に取り組めばその心は必ず生徒に好い影響を与えるであろう。そこから教師と生徒の間、教師と親との間に信頼のきずなが育ってくる。一方では、生徒相互に協力と信じ合う気持も育ってくる。このような心の

育つ教育なくしては、個人的学習はあっても集団的学習にはならず、また、集団的学習の中での個別化も成立しない。個と個、個と集団の相反する目標を統合・止揚することによって、本校が置かれている社会的教育阻害条件を取り除き、あるべき姿の人間育成に努力したい。54年度の研究経過の中から、将来につながる有効な反省点を見出し、さらに飛躍させたい。

- (1) 学習指導
 - ひとりひとりの学習効率を高めるためにバズ学習を定着させ、生徒の相互作用を活用するようにして一斉授業からの完全脱皮をめざした。
 - 教育機器に埋没した指導ではなく、学級集団の学習効率を高めるように教育機器を手足として使いこなす指導法の研究を進めた。
 - 本校が現時点でもっとも必要とする基礎的学力や基礎的体力を適切に選出し、個人差に応じた学習の方法と場の指導を進めた。
 - 人間形成を基盤とし、ひとりひとりの自主学习に役立つ教育機器の活用法を考え、バズ学習を活かしたゆとりと充実の時間のあり方を研究した。
 - 学習と指導に役立つ簡潔な評価法を考えた。

- (2) 生徒指導
 - マナー化しないセブнтаイムのあり方を考えた。
 - バズ学習をとり入れた教科外活動のあり方を考え、教師主導型を排除する。
 - 見て見ぬ振りをした生徒指導にならないように教師間の情報交換を緊密にし、時期を失わないカウンセリングを考えた。
 - 学習指導法を改善し、一斉指導から脱皮することによって、教師学習が生徒指導の基盤となるように努めた。
 - 非行を「追いかける」生徒指導から「生み出さない」生徒指導への全教育活動体制をつくるように努めた。

- (3) 教育環境
 - 非行の温床や教育の低生産性の場から教育目標を達成するのにふさわしい教育環境をつくった。

1 研究主題

学級集団を高める中で、ひとりひとりの学習の成立をめざす

人間関係を基盤にした統合的教育の展開

1 研究主題設定の理由

- (1) 現在われわれに求められているものは一体何か。それは「わかる授業」であろう。すなわち「ひとりもとりのこさず、ひとりひとりをできるだけ伸ばす学習」の創造であろう。たくましく生き、学習によってうまく適応し、創造行為によって、よく生きていくような学習活動の場と教育方法を創造することになる。

しかし、現実には過重な教育内容によって、何人かの生徒が未消化現象を起し、その結果自ら学習に対する意欲を失ったり、ときには集団からもはじき出されて生徒指導上の問題をひき起こす原因ともなっている。本校も例にもれず2年前、授業を受けようともせず、学習を妨害し、平然と校舎を破壊するような生徒が出、さらに他校生までが授業中に乱入し、生徒を殴打したうえ、教師にも暴力をふるうようなことがあった。さらに、高校入試に兵庫方式が導入されたが、それとても生徒がいかに努力しようとも、また人間的にいかに優れた面をもっていようと10段階評価のパーセンテージで示さなければならないので、学力即人間の価値と考える域を脱しきれず落ちこぼれを防止する方途とはなり得なかった。したがって学力の水準は決して満足する程のものではなかった。

われわれ教師は、これらの生徒ひとりひとりに目を向ける中で、意識的に彼らとかかわりを深め、彼らを含むすべての生徒が自ら学びとるという積極的な態度を育てていく指導の必要を痛感した。すなわち「教育とは何か」というつきとめが十分なされることが必要であった。

さらに生徒ひとりひとりが、主体的、意欲的に学習にとりくむためにも、学習集団そのものの基盤の確立が何よりも大切になってくる。わからないことがあれば、それを「わからない」とはっきり言えること、そのような疑問をみんなで解決していく中で、個人が集団とともに喜びを見つけ、ひとりひとりが進んで学習に参加するような学級づくりをめざすことが重大な課題となってくる。

学級や班が準拠集団になると、成員は学級や班のめざす目的を達成するため努力するようになる。学習面でいうと、他の意見から学びとる姿勢や、つまづきを正し合い、励まし合って、お互いの進歩を喜びあえる感覚をもった仲間の中でこそ学習意欲が高まり、つまづきや質問も安心して出し合える。こうした集団の人間関係は認め合い、支え合う暖かい人間関係のもとで、望ましい自己実現をはかる学習集団の中で徐々に形成され、学習活動の重要な基盤となるものであると思う。

- (2) 従来の学習指導をみなおしてみると、一方では協力や親切を説き、互いにそれぞれの人の立

場を理解し合える望ましい学級の成長をねがいがながら、一方では、競争的、排他的にならざるを得ないような学習体制が、しかも同じ教師によって、なんら思慮もなく助長されていた。全人的教育が叫ばれながら行なわれていたというこの事実をどうとらえるかということである。漫然とした学習体制や形態の中では、あまりにも大切ないろいろの要素をわれわれ教師は見落としているのではなからうか。

また急激な高度成長をなしとげた日本の社会は激動する渦の中で巨大な社会機構は人間疎外を生み、過大な情報は人間の主体性をなくし、多様化の波は価値観の混乱をおこした。その病根は深く学校社会にも持ちこまれてきた。このような今日的課題に対して、日々の教育の営みは無自覚なくりかえしであってはならない。常に生徒のあるべき姿の人間形成を念頭におき営まれていくものでなければならない。ゆえに全領域を通して機能的な教育方法論を確立し、質的転換をはかる必要が生まれてくる。

- (3) 私たちはたくましく生きるためには集団でないと生きられないくせに、個を生かせば、相手を排除し、否定しようとする。いわゆる個と個、個と集団の対立である。また個に徹すれば徹するほど孤独になり、孤独をいやすために個性をもった相手を求める。個と個、個と集団の相求である。まことに人間は矛盾に満ち、理屈では割り切れない、非合理的存在である。人間をいかにして、知、情、意をあやつり、うまく生きるために適応行動を学習させ、よく生きていくための創造行為をやらせることができるか、矛盾と非合理的存在の人間のある姿から人間であるべき姿に育てるべき教育の方法と場はどうあるべきか。

われわれが、このことに気づかなかったり、見のがして教育したりしていたことが、二年前の本校の事象や生徒の姿にかかわっているのである。

矛盾的存在であり、非合理的存在である人間の心を爆発させないで、教育の究極の目的である「あるべき姿」の人間形成をはかるとすれば、どうしても統合・止揚の教育が必要になってくる。すなわち、個と個、個と集団の矛盾や対立、相求をつきとめ、相互の否定や連携を仲だちとした価値葛藤を行い、一段と高い段階で統合・止揚するのである。この教育の方法で自己自身や集団を高めていくなれば、集団の中で自己実現につながっていくことと思う。

授業の視点

1 はじめに

一斉授業の形態は、明治から今日まで脈々として続いてきた。その形態から生じる「落ちこぼれを防ぐ方法として、学習の個別化の試みや能力即応の試みが授業に取り入れられたことがあったが、それらはいずれも教育を全人的な立場からとらえ得ず、教育現場では十分な開花を見ることができなかった。そのため、いろいろな矛盾や問題点をはらみながらも一斉授業は現在も学校で続けられており、それは今後もとらざるを得ない授業形態であると考え。そして、その持つ欠陥や画一性を補うために、小集団学習やバズ学習などの指導技術の導入がはかれることになってくる。

しかし、いかなる指導技術や方法をもってしても、それを受け入れその学習の成立を可能にするのは、統合され止揚された学級集団である。過去における排他的傾向が強かった学級集団が、生徒のさまざまな問題行動を生み出してきた事実を目を向ける時、望ましい学習集団としての学級の高まりをはかることは不可欠の条件である。それとともに授業そのものにも改善の手を加え、バズ学習の導入をはかって授業の中で人間関係を統合、止揚する方途をさぐることも大切である。以上のような観点に立って本研究集会のテーマに「学級集団を高める中で、ひとりひとりの学習の成立をめざす人間関係を基盤にした統合的教育の展開」を掲げた。テーマの一つの分野と考えられる学級集団の育成については、別冊「止揚の教育」第2部、第1章にゆずり、ここではもう一つの分野である授業面における統合化と、それをめざして努力してきたことの一部を授業の視点としてまとめ、先輩諸賢の御教示をいただきたい。

2 授業改善の基本的な考え方

従来の授業の形態を想起してみると、同じ教師が、学活や道徳（同和）の時間には協調や協同の必要性を説き、一方、教科の授業においては順位や席次を定め、競争の原理による授業の展開に終始するという矛盾をはらんだものであった。つまり我々教師は、目前の成績の上下のことのみ意を用い、教育における教科の成績以外の大切な一面を見落していたのである。そこで、学習活動の基盤となる学級集団の育成と相まって、教科の授業についてもさまざまな矛盾を包含する各個人が、個人の持つ矛盾は矛盾として認めながら、ひとりひとりの学習活動をより高い次元で統合、止揚する必要が生じてきた。

学習の統合とは、すべての生徒を同一線上に並べ、学習活動を展開して後に生徒は再び同じ目標の線上に並んで到達することを目指すものではない。学級の学力や能力に差のあるそれぞれの生徒が、出発点や到達点は異っても、従来の競争の原理から脱却して協調の原理によって学習活動を展開し、教師の適切な指導と生徒と生徒の相互作用によって、各個人が落ちこぼれることなく、自分で満足のできる到達度を得ることをねらっているのである。

3 指導案について

いろいろな観点から教材を分析し授業を組み立てる段階で、従来の指導案の形式では不備を感じるようになったので、それについて次のように大幅な改正をすることにした。以下「指導過程」の項にどのような事項の記載を意図したのかを簡単に述べておきたい。

- ① 「課題の構成・提示」の項では、その時間の目標（認知目標・態度目標）に迫るためにどのような課題を設定し、それを生徒にどのような形で提示するのかを示した。困難な課題については、その課題を解決するために必要な下位課題を設定した。なお、それぞれの課題は、知識の獲得・理解・習熟など、いずれを目標にしたものであるかをも考慮して表わすことにした。
- ② 「生徒の活動」については、準備・中心・確認の3段階、個人思考・集団思考（小集団バズ）・全体思考（全体バズ）・まとめの4分節をふまえ、課題を解決するためのストラテージを中心として、生徒が課題に対してその解決のためにどのような活動をするのかを示した。
- ③ 「留意点」の「認知的」の項には、認知目標を受け、課題について生徒が活動を展開していく中で、学問的な体系の考慮の上に立って学習する事項を記入した。
- ④ 「態度的」の項では、態度目標を受けて課題解決のために生徒が活動する中で、生徒のどのような態度（傾向性）が養われ、また、養おうとしているのかを示した。
- ⑤ 「基礎的・基本的事項」では、その課題がその教科における既習事項のうち、どのような事項が基礎になって組み立てられたものであるかを表わし、また、その課題を解決することによって、生徒はどのような基本的事項を習得していくのかを表わした。
- ⑥ 「教育機器の利用」の項では、課題の解決をより確実なものにするため、また基本的事項の定着をより効率の高いものとするために、どのような機器を、どの場面で、どのような方法で使用するのかを示した。
- ⑦ 「援助の仕方」の項では、生徒の活動をより活発なものにし、更に認知的・態度的な目標に迫り、授業の成立を図るために、教師がどのようなことからしてどのような方法で援助するのかを示した。
- ⑧ 「学習効果の測定と目標達成状況の評価」の項では、認知目標の評価・参加度の評価・態度目標の評価・その学級の社会的関係の評価などを示した。それらは、ポストテストによる学習効果の測定や、学習のそれぞれの目標が達成されているかどうかについての教師の観察が中心になる。

以上は教科指導の場合の指導案の例であって、セブントタイム・道徳（同和）の指導案も一応この形式で書き表わすことを基本にし、各項目をセブントタイムや道徳（同和）のそれになじむようにくふうした。

4 授業の視点

① 教科の授業

一時間の授業の流れは、まず設定された課題が適切であるかどうか、生徒の学習に対する参加度はどうであるかによって左右される。

適切な課題を設定するためには、まず生徒を知ることから始めなければならない。そのため我々は生徒の知能と学力の相関関係をとらえ、それをもとにして「どのような手だてを構じ」「どのような歩みが続け」「どのような目標」をめざすのかを見極めることから出発した。

また、教材（題材）についても、プレテストや事前調査によって、その教材の学習をするために必要な基礎的事項の定着は充分であるか、また、生徒のその教材に対する興味や関心度も把握しておく必要がある。更に、教師自身の十分な教材研究によって、その教材で指導する基本的事項についても、おさえておくことが大切である。

つまり、生徒の実態の把握と、その教材の研究によって、授業の流れを決める課題の設定が可能になってくる。

その課題に対して、生徒の活動をより効率的にし、授業の流れを常に制御していくのは評価である。学力は認知と態度によって高まるものであり、更にその上に人間関係を基盤にした統合的教育をめざす以上、授業の流れの中における学習効果の測定と評価は、ただ単に学習結果のみの評価にとどまらず、知的、態度的評価とともに、参加度及び学級の社会的関係の評価も充分考えられなければならない。

以上のようなことをふまえ、授業の視点として、次の項目を設定した。

- 一時間の目標を解決するための課題は適切であるか。
- その課題に対しての生徒の活動状況はどうか。
- 基礎的・基本的事項のおさえが充分であり、その定着がはかられているか。
- 教育機器が授業の効率化を促進するために役立っているか。
- 課題に対する評価は適切であり、次の課題への取り組みに生かされているか。

② セブントタイム

学校での教科の授業を支え、その成立を可能にするのは学級集団である。矛盾に満ちた各個人をより高次元で統合、止揚し、望ましい学習集団としての学級集団の育成をめざして、本年度から特設のセブントタイムを実施している。

生活バズでは一日の学校生活を反省し、きびしく自己を見つめる中で個人の高まりをはかり、更に学級の高まりにまで止揚しようとするものである。また、生活バズは、何でも話し会える雰囲気の中で、生徒の自己実現のはかれる場にすることも合わせてその目標としている。

復習バズでは「教えられることによって覚える」「教えることによって覚える」ことを目標に、その日の授業のまとめをし、問題点のフィードバックをはかり、集団思考を通して基礎学力の定着をねらっている。

視点として次の事項を考えている。

- 生活バズでは生活上の問題点を自分の問題とし、また学級の問題として真剣に話し合っているか。
- 復習バズでは協力して疑問点の解決をはかっているか。

・各自が進んで話し合いに参加しているか。また、自己実現の場となっているか。

③ 止揚の時間

文部省の提唱する「ゆとりの時間」を「止揚の時間」として、毎水曜日の午後、第5校時・正課クラブの時間・セブнтаイムの計130分をあてて試行することにした。この時間の基本的なねらいは、あるべき姿の人間形成の場として、個人的学習と集団的学習の統合をはかり、自主学習を通して計画性・創造性の伸長をはかることにある。

教科の延長として設定されたコースの中から、生徒は自分の設定した課題に合わせてコースを選定するため、この時間は学年の枠をはずした編成となる。また、自主学習をねらいとするため、生徒が学習活動の主体者であり、教師はあくまで援助者である。

そのコースは、学期ごとに変更を認め、学期末には自己評価・相互評価をさせ、また発表の機会も設けることにしている。

視点として次のことを考えている。

- ・自分の選んだ課題に自主的に取り組んでいるか。
- ・あくまで自分の力でやりとげる努力をしているか。
- ・上級生・下級生の人間関係がうまくできているか。

5 結 び

我々は従来からの一斉授業を見直し、授業の改善をはかりながら、人間関係を基盤にした「止揚の教育」をめざしている。しかし、まだその歩みも緒についたばかりであって、見るべき成果はあがっていない。教案にも不備な点が多く、授業面でもまだまだ未熟である。この研究集会を機に多くの先駆者からの御指導をいただき、それを糧として、1年後・2年後をめざして歩みを続けたいと考えている。

中学校の部

第1校時

9 : 40~10 : 30

1. 題材
2. 考え方

線路は続くよどこまでも

1. (題材観) この曲はアメリカ民謡として世界の人々に愛唱され親しまれている曲であるが原曲はアメリカの黒人の労働歌である。鉄道建設により西部開拓の意気に燃える黒人の姿を合唱や合奏により明るくリズムカルに力強く表現することによって合唱や合奏の演奏技能を養うのに適する題材である。
2. (生徒観) 生徒はすでにこの曲を聞き、生徒の心情にもよく合っているのでとりつきやすいが、リズムがあいまいであったり、変声期のため、音程がぐらつき、声も出しにくいので十分に曲の感じを表現することはむずかしい。しかし器楽には意欲的である。
3. (指導観) 曲全体をいきいきさせているスキップのリズムについては既習曲「若い力」で指導したが徹底できなかったのでここで再びとりあげしっかり把握させたい。歌唱については、変声期のため、音域に無理のないように二部合唱で指導し、合唱の技能を養いたい。またダイナミックな演奏をめざして合奏させることにより合奏の技能を養うとともにグループアンサンブルにより学級の仲間づくりと音楽の生活化を図りたい。

5. 指導過程

課題の構成・提示	課題への取り組み		
	生徒の活動	留	
		認知的	態度的
各パートを思い出して演奏してみよう	<ul style="list-style-type: none"> ○ 器楽合奏 ○ レコードを鑑賞する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運指に注意し演奏させる ○ 自分達の演奏とレコードとの表現のちがいを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ よく指揮を見て演奏させる ○ 理由を深く考えるようにさせる
ダイナミックな演奏をするにはどうしたらよいか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 班で話し合う ○ どんな速さがよいか話し合う ○ 速度標語の意味について話し合う ○ 速度の演奏練習をする ○ 強弱変化について話し合う ○ 強弱をつける方法について話し合う ○ 強弱をつけた合奏練習をする 	<ul style="list-style-type: none"> ○ レコードの表現と特にちがっていたものは何か考えさせる。 ○ 曲の最初の標語から理解させる。 ○ 速さのほかに発想的要素を含んでいることを理解させる ○ ♩を1拍として速さをつかませる ○ 強弱記号を参考にし考えさせる。 ○ 楽器の音の加減と数の加減があることに気づかせる ○ 強弱をはっきり出させて理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ できるだけ多くの意見を発表させる ○ 楽譜をよく見て考えるようにさせる ○ 速度標語になっている理由から考えさせる。 ○ 感覚的につかむようにさせる ○ 積極的に発表させる ○ 楽器によって方法を変えるようにさせる ○ 最初の音量に注意して演奏させる。
速さと強弱の変化に注意して演奏してみよう	<ul style="list-style-type: none"> ○ 演奏して録音をきく ○ 演奏について話し合う ○ レコードを鑑賞する ○ 次時の学習に対する指示を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲の感じが大きく変わったことを理解させる。 ○ 曲想表現に注意してきかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ できた喜びを味わせる ○ 学習意欲をつけさせる

3. 指導計画..... 6時間

第1次	合唱	2時間
第2次	合奏	2時間 (本時分第2時)
第3次	グループアンサンブル	1時間
第4次	まとめ	1時間

4. 本時の目標

- | | |
|---------|--|
| 1. 認知目標 | 1. 速度標語や強弱記号をいかした豊かな演奏表現を工夫し、合奏の技能を養う。 |
| | 2. すぐれた演奏を聞き、鑑賞の能力を養う。 |
| 2. 態度目標 | 1. みんな協力し、音楽をつくる喜びを体得させる。 |

方 と 援 助 ・ 指 導			学 習 効 果 の 測 定 と 目 標 達 成 状 況 の 評 価
意 点			
基 礎 的 事 項 基 本 的	教 育 機 器 の 利 用	援 助 の 仕 方	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 音符の長さ、符点リズムに注意させる。 ○ 速さと強弱の変化に気づかせる ○ 速度記号と速度標語をはっきり区別させる。 ○ 1分間の♩の速さについて理解させる。 ○ <i>mf</i>・<i>f</i>・<i>ff</i>・<について理解させる。 ○ 笛はピッチの関係により強く吹けないことに気づかせる。 ○ <i>f</i>の感じをしっかりとつかませる ○ 速さ、強弱の変化に注意させる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 使用する楽器 ピアノ、ハーモニカ、 笛、けんばんハーモニカ、 アコーディオン、オルガン、 ベース、エレクトーン、 小だいこ、大だいこ ○ テープレコードで生徒達の演奏を録音する ○ レコードによりすばらしい演奏をきかせ演奏表現を工夫させる。 ○ メトロノームにより <i>Allegretto</i>の速さについて理解させる ○ テープレコーダー ○ 生徒達の演奏と比較するためすばらしい演奏をレコードできかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽器の準備配置について指示する ○ 生徒の演奏の録音をとってきかせる。 ○ レコードをきかせる ○ 曲の速さと音楽の表情について補足説明する。 ○ 強弱の構成について補足説明する。 ○ 録音をきかせる。 ○ レコードをきかせる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各パートが確実に演奏できているか。 ○ すぐれた演奏をきこうとしているか。 ○ 速度標語について理解できたか。(発表させる) ○ <i>Allegretto</i>を理解して演奏しているか (観察する) ○ 曲全体の強弱の変化について理解できたか (発表させる) ○ みんな協力して演奏しているか ○ ダイナミックに演奏できるようになったか、どの点が不十分だったか録音をきいてたしかめる

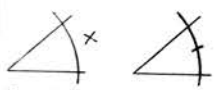
1. 題 材 作図の基本
2. 考 え 方
- (題材観) 図形の学習における論理的な見方・考え方ができるためには正確な作図が書け、はじめて可能である。そこでコンパス、定規を正しく使った操作活動を通して、作図をする場合の点の位置の決定の重要性を知り、図形の基礎的概念を習熟するのに適した題材である。
 - (生徒観) 小学校では図形を直観的・操作的な見方・考え方で扱っているし、また、コンパス、定規、分度器等を使って基本的な図形を作図することは学習しているが、まだ十分に使いこなすまでに至っていないのでこの点に配慮して指導したい。
 - (指導観) それらより発展的にさせるため、定規、コンパスの用い方をはっきり指示し操作を通じて、基本的な作図ができるようにするとともに、図形はどのような条件を満たす点の集合かという観点に立った見方ができるようにさせたい。また、用語やその用い方に慣れさせ論証的な考察への準備としたい。
5. 指 導 過 程

課題の構成・提示	課 題 へ の 取 り 組 み		
	生 徒 の 活 動	留	
		認 知 的	態 度 的
<p>黙想</p> <p>角を書いた紙を折ることによって、角の二等分線について考えよう。</p> <p>角の二等分線上の点をコンパスだけ用いて求めることによって角の二等分線の引き方を考えよう。</p> <p>(1) 角の二等分線上の点をコンパスだけ用いて求める。</p> <p>○作図した理由、手順をグループで話し合う。</p> <p>○グループ毎に発表し、全体で検証し、角の二等分線の引き方を知る。</p> <p>(2) 直線上の点からの垂線の引き方を考える。</p> <p>○作図した理由、手順をグループで話し合う。</p> <p>○グループ毎に発表し、全体で検証し、直線上の点からの垂線の引き方を知る。</p> <p>学習したことをもとにしてプリントの問題を作図してみよう。</p> <p>○コンパスを用いて問題の作図に取り組む。</p> <p>○グループで相互評価する。</p>	<p>○角の二等分線の意味を知り、記号を用いて書けるようにさせる。</p> <p>○直線をひくためには2定点が必要であり、頂角の点は決まっているため、もう1つの点の決定の重要性に気づかせる。</p> <p>○長さの等しいことは定規でなくコンパスを用いて作図することができることに気づかせる。</p> <p>○求めた点が正しいかどうか重ねたり折ったりして確かめる。</p> <p>○角の二等分線の作図の手順はどうであればよいか理解させる。</p> <p>○直線上の点からの垂線も記号で書けることを知らせる。</p> <p>○直線上の点からの垂線の作図も角の二等分線の引き方の応用であることに気づかせる。</p>	<p>○1節2項を思い出させ、角の二等分線を記号を用いて表わすようにさせる。</p> <p>○他のグループの発表を真剣に聞き不足していることがあれば補わせる。</p> <p>○直線は平角であることに気づくことによって興味をもって取り組ませる。</p> <p>○学習したことに気をつけながら問題の作図に取り組むようにさせる。</p>	

3. 指導計画..... 3時間
- 第1次 角の二等分線、直線上の点からの垂線の作図 1時間 (本時分)
 - 第2次 垂直二等分線、直線上の点からの垂線の作図 1時間
 - 第3次 条件を満たす点の集合 1時間

4. 本時の目標

1. 認知目標 コンパス、定規だけを使って基本的な角の二等分線を作図し、それが正しいかどうか操作的に確かめたり、応用できる能力を伸ばす。
2. 態度目標 コンパス、定規を正しく使って正確な作図ができるようにお互いに協力し合い課題に取り組む態度を養う。

方 と 援 助 ・ 指 導			学 習 効 果 の 測 定 と 目 標 達 成 状 況 の 評 価
意 点			
基 礎 的 事 項 基 本 的	教 育 機 器 の 利 用	援 助 の 仕 方	
<ul style="list-style-type: none"> ○角の二等分線線を\sphericalangleの記号を用いて書かせる。 ○直線をひくためには2定点が必要であることを確認させる。 ○定規は線をひくときだけに、長さはコンパスを使用させる。 ○\sphericalangleの記号の意味と用い方をわからせる。 	 <p>等の異なった作図をみつけOHPで提示し、考えさせる。</p> <p>相互評価できるように解答をOHPで提示する</p>	<p>角を書いた紙を渡し角の二等分線について考えさせる。</p> <p>机間巡視する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コンパスを使って点の位置を求めるのに困っている生徒には具体物で知らせ、考えさせる。 <p>説明しやすいように必ずコンパスのあとを残させる。</p> <p>机間巡視する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作図できない生徒には直線は平角であることに気づかせる <p>学習したことが分るように角の二等分線、直線上の点からの垂線の引き方を書いた図を提示し、取り組ませる。</p>	<p>角の二等分線の意味が分かり、記号を用いて書けたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コンパス、定規を正しく使用して角の二等分線上の点を求めようとしているか。 自分の考えを班員に述べようとしているか。 積極的に話し合いに参加し、解決しようとしているか。 <p>角の二等分線の引き方が応用できたか。</p> <p>角の二等分線の作図の仕方を理解し、そのことを用いて、問題の作図に取り組んでいるか。</p>

1. 題材 音楽や詩の印象を構想画にしよう。
2. 考え方
- (題材観) 美しい詩や音楽には心打たれるものが多い。その感動をすなおに自由な色・形に表現できる本題材は絵画に対する抵抗をやわらげ、学習意欲を高め、創造的な自己表現ができるよい題材である。
 - (生徒観) 写実的な作品こそ至上のものと考えている反面、抽象作品に関心が深く親しみを感じているようで、それぞれの生活経験とむすびつけた感想もとび出してくる。
 - (指導観) 共同制作を通して、四名、協力しあって一つの作品を確実に一步一步すすめていく過程の大切さと、お互いを認めあえる温かい人間関係が深められるよう指導するとともに、イメージにふさわしい技法を身につけるよう指導したい。

5. 指導過程

課題の構成・提示	課題への取り組み		
	生徒の活動	留	
		認知的	態度的
<p>○道具の準備の確認</p> <p>曲のイメージをすなおにとらえてみよう。 詩のイメージをすなおにとらえてみよう。</p> <p>○構図はこれでよいか。</p> <p>○画面をちがった面から見なおす。</p> <p>○色彩はこれでよいか。</p> <p>○誰がどこをどう描きすすめるか、確認しあう。</p> <p>考えながら、描き、適確な表現方法をさぐり出す。</p> <p>制作活動</p> <p>意見交換(批評)</p> <p>くりかえす</p> <p>たえず</p> <p>次時の方向について、理解しあう。</p> <p>○反省すべきことは何か、どうすすめるかメモする。</p>	<p>○画面構成が作品の出来、不出来を左右することに気づかせる。</p> <p>○部分の技法にとらわれず、常に全体を見ながら描くことの大切さを理解させる。</p>	<p>○ひとりひとりのもっているよい描写力をいかして、作品を高めるように進めさせる。</p> <p>○完成作品を頭に描きながら、制作するよう心がけさせる。</p> <p>○他の意見にすなおに耳をかたむける姿勢、意見を吟味し、自分たちの作品にとり入れる態度を養うようにする。</p>	

3. 指導計画..... 12時間
- 第1次 シャガール他抽象作品の鑑賞 2時間
 - 第2次 ビバルディの『四季』を聞き、印象の表現 2時間
 - 第3次 テーマ決定(グループ毎)、深めあう 2時間
 - 第4次 制作 6時間(本時分第2時)

4. 本時の目標

1. 認知目標 音楽・詩それぞれから受ける印象を適確に表現する創造的能力を体得させる。
2. 態度目標 たえず、意見交換をくりかえしながら、問題意識をもって制作を進める態度を育てる。

方 と 援 助 ・ 指 導			学 習 効 果 の 測 定 と 目 標 達 成 状 況 の 評 価
意 点			
基 礎 的 事 項 基 本 的	教 育 機 器 の 利 用	援 助 の 仕 方	
<ul style="list-style-type: none"> ○イメージをすなおに表現する。 ○完成作品よりも制作過程を大切にす態度に留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ビバルディの『四季』を静かに流し、制作ムードをもちあげる ○意見交換時にイメージをかいたOHPを利用させる。 ○参考作品の掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ○机間巡視でアドバイスする。 ○適確な表現の工夫があれば全員に掲示、意欲を高める。 他グループとの進度の差を気にせず、じっくりなっとくのいく制作をすすめるよう、うながす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時に描いた作品を見て、作品は未熟でも努力したことのよさを見出ししているか。 ○人の意見をすなおに聞いたか。 ○積極的に意見をのべたか。 ○イメージにふさわしい表現ができているか。 ○自分の考えが表現上、生かされたという満足感が味わえたか。

1. 題材 天下統一への動き
2. 考え方
- (題材観) 16世紀後半の比較的わずかな年数であるが、信長、秀吉によって天下統一がされた跡をたどる。信長、秀吉の生き方を学習することは、将来ひとりひとりの置かれた境遇と戦いながら、その前途を開拓していく時の参考になる有意義な題材と考える。
 - (生徒観) 生徒は信長、秀吉のことを小学校で学習しているが、それぞれどんな方法で、どんなに苦労して天下を統一したか。また実権を握ってどんな政治をしたかについては知らない。
 - (指導観) 統一事業の具体策のうち、特に楽市、楽座、検地、刀狩りなどは文章、史料を通して十分に把握させたい。異質文化との出会いと、対応が全世界的に展開された時代であり、この時期が歴史の転換期にあることをおさえ、江戸時代の封建制の土台づくりにつながることを明確にしたい。

5. 指導過程

課題の構成・提示	課題への取り組み		
	生徒の活動	留	
		認知的	態度的
<p>信長について知っていることを話し合ってみよう。</p> <p>なぜ戦国大名は全国統一をめざして争い、京都へ上るのか、その原因について考えよう。</p> <p>信長は天下統一の事業をめざしたが、なぜその事業が挫折したのか考え話し合おう。</p> <p>学習したことを確かめ、次時の準備課題を確認しよう。</p>	<p>○肖像画から受ける印象も含めて、個人で考えて、全体で確認し、まとめる。</p> <p>○当時の有力な戦国大名は誰か、なぜ京都に上ることを目標にしたか、資料をもとにしながら考える。 ・個人思考する。 ・全体で検証し、まとめる。</p> <p>○信長の処世術、性格を理解するための方法を考える。そのために次のことに焦点を合わせて考える。</p> <p>○信長が京都に上ることのできたのはなぜか。 ○信長に対する三大敵対勢力にどう対処したか。 ○なぜ信長は暗殺されたか。</p> <p>○個人思考し、プリントに記入する。班で話し合い、検証する。全体で検証し、まとめる。</p> <p>○班内で確かめながら要約を確実にし、プリントに記入する。</p>	<p>○数多い戦国大名の中で天下統一を最初になしとげた理由の一つとして信長の進歩性や新しさを理解させる。</p> <p>○信長に対する三大敵対勢力(室町幕府・戦国大名・一向一揆)とその対処について理解させる。</p> <p>○信長の冷たい性格も原因の一つと思われるが、下剋上の世の中であることを理解させる。</p>	<p>○印象をすすんで発表させる。</p> <p>○班内での相互作用を通して、同一視の思考過程をふませ、必ず一回は発表させる。</p> <p>○全員が活動し、積極的に発表するようにする。</p> <p>○学習したことがらに気をつけ、自分たちの生活や社会の中で具体的に生かしていくような態度をもたせる。</p>

3. 指導計画..... 4 時間

第 1 次	ヨーロッパ人の来航	1 時間
第 2 次	戦国大名と信長の動き	1 時間 (本時分)
第 3 次	秀吉の検地と刀狩	1 時間
第 4 次	日本町、安土・桃山文化	1 時間

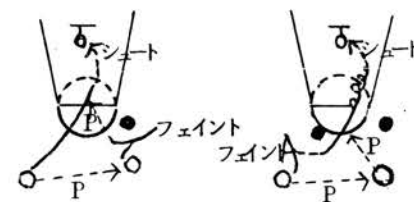
4. 本時の目標

1. 認知目標
 - 戦国大名の全国統一への動きを理解させる。
 - 信長の天下統一の事業が挫折した原因について理解させる。
2. 態度目標
 - 学力のおくれているものは積極的に自らの手を差し出し、すすんでいるものは手を差しのべて、同一視の思考過程をふませる。課題に対して一人ひとりが思考し、全員発表をさせる。

方 と 援 助 ・ 指 導			学 習 効 果 の 測 定 と 目 標 達 成 状 況 の 評 価
意 点			
基 礎 的 事 項 基 本 的	教 育 機 器 の 利 用	援 助 の 仕 方	
<ul style="list-style-type: none"> ○戦国大名の天下統一への歩みを理解させる。 ○信長の天下統一への動きをたどる。 ○信長の政治の特色は何かを理解させる。 ○信長の事業が挫折した原因をわからせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ OHP、SLで学習目標の確認と興味づけをする。 ○ OHPでよくわかるように群雄割拠の姿を知る。 ○ OHP、SLで信長の性格を知るため一向一揆信長公記をみる。(部分) ○ OHPで次時課題の確認のため「検地のようす」をみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全員が発表するように指示する。 ○信長の衣服について注意するよう指示する。 ○信長の性格をあらわす「鳴かぬなら殺してしまへ時鳥」の歌からも気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人思考する時、自分のことばでまとめられたか。 ○戦国大名の中で、実力のあるものが、京都への進出を企てた理由とその行動のしかたについて理解したか。 ○班内で話し合いする時、協力して共通する考え方や方法でまとめることができたか。 ○信長のはげしい性格や手腕を理解したか。各自の将来の生活を切り開いていく上で参考になったか。

1. 題 材 バスケットボール
2. 考 え 方
- (題材観) バスケットボールは、スピードと変化にとんだ動きの中から5人がそれぞれの攻撃、防御の役割を正しく的確に判断し行動するスポーツであるのでチームワークをとり協力の精神を養うのに適している。
 - (生徒観) 1年の授業でバスケットの内容はある程度理解している。しかし、基本的動作、コンビネーションプレーは未熟で、的確な判断力、行動力はできていない。
 - (指導観) 全体の動きの中からの的確な行動力、判断力を身につけさせコンビネーションプレーの大切さを、VTRを通してわからせる。
また、グループで、組織だった攻防について理解を深めていきたい。

5. 指導過程

課題の構成・提示	課 題 へ の 取 り 組 み		
	生 徒 の 活 動	留	
		認 知 的	態 度 的
<p>準備、補強運動をしよう。</p> <p>カットインプレーを学ぼう</p> <p>1. VTRを見よう。</p> <p>2. 2対1の攻防をやってみよう。</p> <p>3. 2対2の攻防をやってみよう。</p> <p>本時の整理をしよう</p> <p>学習したことがらを確認し、次時の学習課題を知る。</p>	<p>○ランニング、白鷺体操、補強運動をする。</p> <p>○グループでパス、ドリブルシュートを行なう。</p> <p>○VTRを見てカットインプレーを学ぶ</p> <p>○2対1、2対2のカットインプレーの攻防を練習する。</p>  <p>2対1 2対2</p> <p>○自分たちのプレーのVTRを見る</p> <p>○ボールを収納する。</p> <p>○整理体操をする。</p> <p>グループで2対1、2対2の攻防について話し合い、次時の3対1、3対2のプレーをVTRで見る。</p>	<p>バスケットボールに必要な筋力、敏しょう性、瞬発力を強化させる。</p> <p>フェイント、ピボットでディフェンスをくずし、判断よく、的確なパスを出させる。</p>	<p>体力強化にグループで協力させる。</p> <p>他のグループのプレーを見て互いにアドバイスをさせる。</p> <p>各自のプレーを、VTRを見ながら、話し合わせる。</p> <p>心身の整理ができるようにさせる。</p> <p>各自の動きを思いおこさせ、積極的に話し合いに参加させる。</p>

3. 指導計画..... 8時間
- 第1次 連続パスからのシュートと速攻のしかた。 2時間
 - 第2次 カットインプレーによる攻防 3時間 (本時分第1時)
 - 第3次 カットインプレーと、ゾーンディフェンス、マンツーマン、ディフェンスによるゲーム 3時間

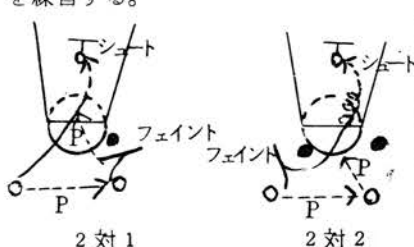
4. 本時の目標

1. 認知目標 カットインプレーにおいて的確な動きを身につけ行動する判断力を養わせる。
2. 態度目標 カットインプレーの攻防をVTRで確認し、グループで真剣に検討する態度を養う。

方 と 援 助 ・ 指 導			学 習 効 果 の 測 定 と 目 標 達 成 状 況 の 評 価
意	点		
基 礎 的 事 項 基 本 的	教 育 機 器 の 利 用	援 助 の 仕 方	
カットインプレーの連けい動作 ドリブルの力 ピボット } の使い方 フェイント	本時の中心課題をVTRで学ばせる。	黒板を利用し、連けい動作を指示する。 リターンパスの的確な位置を指示する。	軽く汗ばんだ状態になっているか、ボールが自分の身体の一部としてプレーできているか。 2対1の攻防でディフェンスをぬくことができたか。 2対2の攻防でディフェンスをぬくことができたか。
的確な判断力	チームプレーをVTRで見せ、動きを学ばせる。 次時の中心課題をVTRで指示する。	機械的な動きになっていないか注意する。	カットインプレーの必要性が理解できたか。

1. 題材 バasketボール
2. 考え方
- (題材観) Basketballはスピードと変化のはげしい動きの中から5人がそれぞれの攻撃、防御の役割を正しく的確に判断し行動するスポーツである。また生徒は運動量の大きさと、自分の投げたボールがゴールに入る時のそう快さを味わい、意欲的に取りくむ態度を養成するのに適した教材である。
 - (生徒観) 1年生で1対1の対人プレーは、できるようになっているが、チームとしてのコンビネーションプレーは未熟であり、的確な判断による行動はできていない。リーダーがクラスの核となって、皆をよくまとめてはいるが、更に積極的な行動がほしい。
 - (指導観) 攻撃や防御に組織だった戦略や戦術が要求されるスポーツであることからチームワークの大切さ、正しく的確な判断を身につけさせるとともに、ここではコンビネーションプレーの基礎となるカットインプレーを使つての攻防のしかた及び、自分達でゲーム運営ができるようにしたい。

5. 指導過程

課題の構成・提示	課題への取り組み		
	生徒の活動	留	
		認知的	態度的
<p>準備、補強運動をしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ランニング、白鷺体操、補強運動をする。 ○グループでパス、ドリブルシュートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○Basketボールに必要な筋力、敏しょう性、瞬発力を強化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体力強化にグループで協力しあう。
<p>カットインプレーを身につけよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> VTRを見よう 2対1の攻防をやってみよう。 2対2の攻防をやってみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○VTRを見てカットインプレーを学ぶ。 ○2対1、2対2のカットインプレーの攻防を練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○プレーを各自イメージ化させる。 ○フェイント、ピボットでディフェンスをくずし的確なパスをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他のグループのプレーを見て互いにアドバイスをさせる。
<p>本時のまとめをしよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ボールを確実に集納する。 ○整理体操をする。 ○グループで2対1、2対2の攻防について話し合い、次時の3対1、3対2のプレーをVTRで見る。 		<ul style="list-style-type: none"> ○各自の動きを思いおこさせ積極的に話し合いに参加させる。

3. 指導計画..... 8時間
- 第1次 連続パスからのシュートと速攻のしかた。 2時間
 - 第2次 カットインプレーによる攻防 3時間 (本時分第1時)
 - 第3次 カットインプレーとマンツーマンディフェンス、ゾーンディフェンスによるゲームと審判のしかた。 3時間

4. 本時の目標

1. 認知目標 フェイントやピボットを使ってディフェンスをくずし、的確なパスをさせる。
2. 態度目標 課題に真剣にとり組み、グループで協力しながら技能を高めようとする態度を養う。

方 と 援 助 ・ 指 導			学 習 効 果 の 測 定 と 目 標 達 成 状 況 の 評 価
意	点		
基 礎 的 事 項 基 本 的	教 育 機 器 の 利 用	援 助 の 仕 方	
<ul style="list-style-type: none"> ○カットインプレーの連けい動作 ○ドリブルの力 ○フェイントの使い方 ○ピボット 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をVTRで指示する。 ○次時の学習課題をVTRで指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身体の前方でドリブルをするように注意する。 ○リターンパスの的確な位置を指示する。 ○ディフェンスの動きをよく観察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○軽く汗ばんだ状態になっているか。 ○ボールが自分の身体の一部としてプレーできているか。 ○2対1の攻防でディフェンスをぬくことができたか。 ○2対2の攻防でディフェンスをぬくことができたか。 ○話し合いに積極的に参加できたか。

1. 題材 Lesson13 Christmas Presents
2. 考え方
- (題材観) Will you ~? how to ~. Shall I ~? の表現を学習し、より幅の広い言語活動に発展させるとともに、「人間の思いやりの大切さ」を学ばせるのによい題材である。
 - (生徒観) 物語なので他の教材よりも興味を持って読むことができ内容もつかみやすいと思う。新しい表現も pair で練習しやすい。
 - (指導観) Will you ~? how to ~. Shall I ~? の表現に習熟させるために2人での問答を集中的に行わせたい。
 - 内容把握のコツをつかむために、どこに重点をおいて聴くべきかを示したプリントなどで把握の仕方を学ばせたい。

5. 指導過程

課題の構成・提示	課題への取り組み		
	生徒の活動	留	
		認知的	態度的
<p>前時に習った表現を思い出そう。</p> <p>新しい表現 how to を学び本文の内容を聴きとろう。</p> <p>文法的ポイントを確認しよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ Will you ~? の問答を練習する。 ○ 英語での説明をきき意味を予想する。 ○ how to の表現を理解する。 ○ 絵を見て口頭で反復練習する (全体→班→pair) ○ pair で絵を見ないで自由練習する。 ↓ 表現 ○ 新出語を学ぶ ○ 本文を聴き内容のポイントをつかむ (メモする) → 確認 ○ Reading (全体→班→個人) ○ 内容を問う質問に答える。 ○ もう一度絵を見て how to の文を言う。 ○ 文法的ポイントを各自がまとめる。 	<p>Will you ~? は上げ調子で読む。</p> <p>日本語を頭にうかべずに表現させる。</p> <p>gold comb の音に注意 [ou] [m] 細かい事よりも文の流れに注意する。</p>	<p>ていねいに頼む気持ちが出るようにする。</p> <p>大きな声で積極的に練習する。 (この時間にこの表現を身につけるんだという気持ちで。)</p> <p>正しい音調でしかもはっきりと大きな声で読むようにする。 班での積極的な発言をするようにする。</p>

案 (2 年 3 組)

指導者 教諭 上垣 泰博

3. 指導計画..... 4 時間

- 第1次 Will you-?の表現の学習。Part1内容把握 1時間
- 第2次 how to の表現の学習。 Part2 " 1時間 (本時分)
- 第3次 Shall I-?の表現の学習。 Part3 " 1時間
- 第4次 Part(4)の内容把握と復習。 1時間

4. 本時の目標

- 1. 認知目標
 - how to 「～の仕方」を用いた表現 (疑問→応答も含む) に習熟させる。
 - 内容は場所、時、人物、会話などに重点をおいてつかませる。
- 2. 態度目標

英語の表現を日本語を通して理解するのではなくそのまま直接動作や情景などに結びつくように努めさせる。

方 と 援 助 ・ 指 導			学 習 効 果 の 測 定 と 目 標 達 成 状 況 の 評 価
意 点			
基 礎 的 事 項	教 育 機 器 の 利 用	援 助 の 仕 方	
Will you -? All right Sorry.	前時の表現をより定着させるためにOHPでまとめたものを示す。		
how to ~ 「～の仕方」		英語だけの説明で不十分な時は日本語を少し入れる。 机間巡視で適切な助言をする。	絵をみてすぐ英語で表現できたかやらせてみる。 活発にペアーで練習できているか。
文の流れがつかみとる事ができる。	(テープレコーダー) 初めはゆっくりとしたスピードで音を流す。 ポイントの要約を印象づけるためにOHPで示す。	なににポイントを置いて聴くべきかのプリントにメモさせる。	内容のポイントが正確に把握できたか。 各自が文法的ポイントを要約して言えるか。

1. 題材 堀池の僧正（「徒然草」から）
2. 考え方
1. (題材観) ○わが国中世文学の一代表である随筆「徒然草」から原文で読みやすいものを取り上げ、それぞれ友人の考えがよく表わされており、また十分に今日に通ずる現代的意義をもつものである。このような味かい深い文章に接し、読解鑑賞の力を高め、古典への興味、関心を深めるために適した題材である。
 2. (生徒観) ○二年生のこの時期になると、社会科学習などの影響もあり、古典の時代に対する認識も深まり、季節的な文化行事との関連においても、文化遺産に対する関心に目を開いてきている。こうした時期に古典学習にはいることは当を得ている。
 3. (指導観) ○全文文語文という文章は初めてであり、その余韻ある洗練された表現に親しみ、そこから自分自身の物の見方、考え方、そしてその表わし方など自らを育ていく態度をつけさせたい。

5. 指導過程

課題の構成・提示	課題への取り組み		
	生徒の活動	留	
		認知的	態度的
<p>「堀池の僧正」を読み、大意をとらえよう</p> <p>○グループで音読する。 どれだけ読めるか、自分で確かめる。 評価表によって、自己評価、相互評価する。</p> <p>○大意をまとめる 大意をまとめるにはどうしたらよいかまとめてみる。個人思考→集団思考→全体発表</p> <p>作者は何をいおうとしているかについて考え、話し合おう</p> <p>○主題の見通しをたてよう。</p> <p>○個々でノートに書く グループで話し合い検証する。 発表する。全体で検証する。 まとめ</p> <p>学習したことから確かめよう。</p> <p>プリントで提示</p>	<p>○グループで音読する。 どれだけ読めるか、自分で確かめる。 評価表によって、自己評価、相互評価する。</p> <p>○大意をまとめる 大意をまとめるにはどうしたらよいかまとめてみる。個人思考→集団思考→全体発表</p> <p>○どうい問題が中心になるか、解決のための方法、考え方をみつけよう。 そのために次のことに焦点を合わせて考える。</p> <p>・僧正のあだなはどうかわっていったか。 ・それぞれのあだなにつけられた原因は。 ・このあと、まだ、あだながつけられるとすればどんなあだなになるだろう。 ・結局あだなの消えることはあるだろうか。</p> <p>○個々でノートに書く グループで話し合い検証する。 発表する。全体で検証する。 まとめ</p>	<p>読みまちがいを正しながら、正しい読み方を高めていく。</p> <p>忠実な全訳を求めるのではなく注を参考にして大意をとらえさせる。文末が「けり」と「ける」とあることから「ぞーける」というきまりがあることに気づかせる。</p> <p>あだなの真の原因はどこにあるのかを考えさせる。 自分のおこりっぽさにあることに少しも気づかず形の上での原因だけを追っていることに気づかせる。 一体何が中心なのかを考えその中心をさらに深く読みとらせる。 現代に通ずる寓話であることに気づかせる。 話のおもしろさはどこにあるのかをとらえさせる。</p>	<p>ひとりのこらず積極的にとりくもうとする態度をもたせる。</p> <p>繰り返し読み、注を参考にすれば意外にわかりやすいことを体験させ、意味をたどって開拓の喜びを味わせる。</p> <p>読みとった主題を自分の生活や社会の中で具体的に考える態度をもたせる。 教師の指名をまたず、自主的に考えて、話し合い、発表させる。</p>

3. 指導計画..... 4時間
- 第1次 「徒然草」についての知識をまとめる 1時間
 - 第2次 「雪のおもしろう降りたりし朝」を読んで 1時間
 - 第3次 「堀池の僧正」を読んで 1時間 (本時分)
 - 第4次 「八つになりし年」を読んで 1時間

4. 本時の目標

1. 認知目標 ○注を参考にして原文を読ませ、古典の調子になれさせるとともに、話の展開、筋道を読みとらせる。
2. 態度目標 ○課題に対して、ひとりのこらず自分の考えをまとめさせ、喜んで学習に参加させる。
○全員活動、全員発表をめざして自主・積極性を養う。

方 と 援 助 ・ 指 導			学 習 効 果 の 測 定 と 目 標 達 成 状 況 の 評 価
意 点			
基 礎 的 事 項 基 本 的	教 育 機 器 の 利 用	援 助 の 仕 方	
<p>歴史的かなづかい ハ行の音はワ行の 音で発音 古文に読みなれる。</p> <p>要約技術の巧拙は 問題にせず大体の 意味の把握のしか たをつかませる。 初歩的な文語文法 を理解させる。</p> <p>口語文との相違に 気づく</p> <p>作者の問題意識訴 えているものは何 か。</p>	<p>問題解決のために焦点 をOHPで示し考えさ せる。</p> <p>まとめをOHPで提示 し確認させる。</p>	<p>歴史的かなづかい、こと ばづかいなどの抵抗を とり去る。</p> <p>全員が発表するように 指示</p> <p>話し合いの進め方に注 意する。 深化、拡大がうわすべ りにならないようによ く聞き、見て、話して 行動化できるようにす る。 問いかえし、ゆさぶり をかける。 机間巡視 補足、修正する。</p>	<p>文語文の読み方は次の観点で評価さ せる。 ことばの調子、リズム感、なめらか さ、間のとり方、くぎり方、抑揚、 速さ</p> <p>自分の考え、意見がはっきり言えた か。 協力して共通する考え方、方法をま とめることができたか。</p> <p>作者や作中の人物のもの見方、考 え方、感じ方が理解できたか。</p> <p>音読や朗読を通して古文の調子にな れたか。</p> <p>何を学びとったか、どの部分が不十 分であったかがつかめたか。</p>

1. 題材 Otoko - san and the Straw Coat
2. 考え方
- (題材観) 本課は秋田地方に伝わる民話の英語版である。いたずらっ子の生き生きした姿が描かれている。ある程度まとまったストーリーを持つ物語を読みとり、英語のおもしろさを味わわせて英語への関心を、高めるのに適当な教材である。
 - (生徒観) 三年生後半になると、生徒は基本的な構文を殆んど学習し、英文の物語を理解できる段階になっている。外国に関する事象は今までも習っているが、日本の民話は始めてなので興味をもって学習すると思われる。
 - (指導観) 平易な表現で内容が理解しやすく、ユーモアのある場面を活かすため、細かい文の構成を前面に出さず、できるかぎり Audio - Visual な取扱いにし、表現能力の充実をはかりたい。

5. 指導過程

課題の構成・提示	課題への取り組み		
	生徒の活動	留	
		認知的	態度的
<p>前時の学習ポイントを確認しよう</p> <p>Part3の内容を読みとろう</p> <p>○ too... to ~の構文を学習しよう。</p> <p>内容についての問いに答えよう</p>	<p>○前時の物語を思い出す。 ○班で話し合い、要点を発表する。 個人→班→全体</p> <p>○絵を見ながら英文を聞く。 ○ too... to ~の構文を学ぶ ○班で練習する ○新出語を学ぶ</p> <p>○本文を聞く ○テープのあとについて読む。 ○本文の意味を考える。(個人) ○ (班) ○ (全体) ○要点と重要事項を確認する。 ○本文を読む。</p> <p>○ too ~ to...の文を作る ○ Part3の内容について問答する。 ○次時への連絡</p>	<p>as soon as. tell ~ to...の文を作る。</p> <p>Hearingにより内容を理解させる。 so ~ that... cannotの文と比較する。 意味と発音([ɪθ])に注意させる。</p> <p>イントネーションに気をつけさせる。 本文の意味を理解させる。</p> <p>Phrase に気をつけて読ませる。</p>	<p>すすんで文を作り解らないところを質問しようとする。</p> <p>注意深く聞かせるようにする。 新構文に言い換えようとする。 正しい発音に近づけようとする。</p> <p>積極的に話し合い個人のあやふやな点を明確にしようとする。</p> <p>native speakerの読みに近づけようとする</p> <p>積極的に答えようとする。</p>

3. 指導計画	6 時間
第 1 次	Part1	1 時間
第 2 次	Part2	1 時間
第 3 次	Part3	1 時間 (本時分)
第 4 次	Part4	1 時間
第 5 次	Part5 とまとめ	2 時間

4. 本時の目標

1. 認知目標
 - Part3 の内容をよみとり、そのおもしろさをとらえさせる。
 - too ~ to ... の構文を so ~ that ... cannot の言いかえとして学ばせ、その用法の習熟をはかる。
2. 態度目標
 - 課題を自分たちで解決する過程で、物語のおもしろさを理解させ、英語学習への興味と関心を高めるようにさせたい。

方 と 援 助 ・ 指 導			学 習 効 果 の 測 定 と 目 標 達 成 状 況 の 評 価
意 点			
基 礎 的 事 項 基 本 的	教 育 の 機 器 の 利 用	援 助 の 仕 方	
as soon as. tell ~ to ... の 構文	T V で 絵 を 表 示 し、理 解 し や す く す る。	前 時 の 絵 を 見 せ、学 習 内 容 の 想 起 を 促 す。	as soon as と tell ~ to ... の 文 が 作 れ る か。
too ~ to ... の 構 文。 発 音 [tʊ] [tə] [tʊ]	T V で 絵 を 表 示 し 物 語 の 内 容 を 知 ら せ る。 L.L. を 活 用 し、native speaker の 発 音 を 聞 か す。 L.L. に よ り Reading さ せ る。	so ~ that ... can't ... と too ~ to ... の 構 文 を 表 示 し、変 換 し や す く す る。 モ ニ ター に よ り チェ ッ ク し、個 別 に 指 導 す る 機 間 順 視 ま た は モ ニ タ ー に よ り 指 導 す る。 長 い 質 問 文 は、ゆ っ く り と、は っ き り と 発 音 し て、理 解 し や す く す る。	so ~ that ... cannot の 文 か ら too ~ to ... の 文 が 作 れ る よ う に な っ た か。 意 味 を 理 解 し ユー モア が 理 解 で き た か。 各 班 で 意 見 が 出、リ ー ダー は う ま く ま と め て い る か。 ア ナ ラ イ ザ ー に よ り too ~ to ... の 構 文 の 理 解 の 程 度 を 確 か め る。

1. 題材 夏草（奥の細道）
2. 考え方
- 1.（題材観）奥の細道は芭蕉の代表作であり、また、近世俳諧、俳文の集大成である。芭蕉の芸術は旅と切り離すことはできない。旅の中で磨きあげられた俳句、俳文は人生を旅と考える彼の人生観を探究することによって、はじめて、その理解が可能になると考える。
 - 2.（生徒観）俳句は、小学生の頃から学習しているし、芭蕉の名も生徒には親しみやすいものであるため、本題材は、どの古典よりも、生徒は親しみを持って取り組むことができると思われる。
 - 3.（指導観）夏草（奥の細道の抜粋）を読み、味わうことにより、先人の心（古典の心）を理解させたい。

5. 指導過程

課題の構成・提示	課題への取り組み		
	生徒の活動	留	
		認知的	態度的
<p>芭蕉の人生観について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「月日は百代の過客」を読もう。 ○旅をどう考えていたのかを読みとろう。 ○人生をどう考えていたのかを読みとろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○黙読して、芭蕉の旅に対する考え、人生に対する考えを読みとる。 ○各自がノートにまとめる。 （個人思考） ○まとめた事項を、グループ内で調整する。 （集団思考） ○グループごとに発表し、全体で話し合っ て思考を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「人生は旅である」とする芭蕉の考え 方と、それをつらぬい た彼の生涯との関連 においてとらえさせ る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章に即して、作者 の人間性を読みとる 努力をさせる。その ため、要点は、メモ をする習慣をつけさ せる。
<p>表現上の特徴について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○縁語、対句など表 現上の技法を調べ よう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○縁語、対句形式を用いている箇所を ノートにメモする。（個人思考） ○グループごとにまとめる。 （集団思考） ○全体で話し合う。（全体思考） 	<ul style="list-style-type: none"> ○縁語や対句が、簡潔 でひきしまった漢文 調と相まって、俳文 独得の格調の高さを かもし出しているこ とを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○古典独得の調子、音 律を読みとらせるた め、縁語、対句の考 え方を調べてさせ るようにする。
<p>本時のまとめをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○きょうは、どんな ことを学習したの か。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の要点をまとめて発表する。 ○全文を朗読する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○古典のもつ美しさ を感じとらせるため、 名文といわれるもの は暗唱する習慣をつ けさせる。

3. 指導計画..... 4 時間
- 第 1 次 芭蕉について調べる。夏草を読み主要語句を理解する。
 - 第 2 次 「月日は百代の過客」の鑑賞..... (本時分)
 - 第 3 次 「平泉」の鑑賞
 - 第 4 次 発展「弥生も末の七日」「立石寺」を読み定着をはかる。

4. 本時の目標

1. 認知目標 芭蕉の名文をくり返し読ませることにより、人生を旅と考える芭蕉に代表される昔の人の東洋的(日本的)なものの考え方や、徹しくきたえあげられたことばの持つ美しさを理解させる。
2. 態度目標 独得のリズムを持つ芭蕉の名文の美しさを足がかりとして、古典に親しむ態度を養う。

与 と 援 助 ・ 指 導			学 習 効 果 の 測 定 と 目 標 達 成 状 況 の 評 価
意 点			
基礎的 基本的 事項	教育機器の利用	援助の仕方	
<ul style="list-style-type: none"> ○文から人生観をとらえるためには、その読みが充分なされていることが大切である。 ○奥の細道は、「人生によって代表される万物がすべて旅である」という考えでつらぬかれている 	<ul style="list-style-type: none"> ○OHP、奥の細道の地図により、昔の旅を知る手がかりにさせる。 ○OHP <ul style="list-style-type: none"> ・縁語、対句例を提示し定着をはかる。 ・発表事項をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○机間巡視により個人思考、集団思考の深まりを助ける。 ○全体思考の場で、補足、修正、まとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いや発表内容をチェックし、思考の深まりを観察する。 ○作者の旅に対する考えが、理解できているか。 ○縁語、対句などの技法が理解できたか。自分でみつけ得た個所に線をひかせておく。 ○俳文独得の調子と、語句の持つ意味が充分理解できているか。

1. 題材
2. 考え方

半導体を使った電子部品のはたらきと使用法

1. (題材観) 生活の中にはテープレコーダー、ステレオといった半導体部品を使用した電子機器が定着している反面、理論的な理解はほとんどなく、その特性を十分に生かしてない場合が多い。ここでは半導体部品のはたらきと利用について理解することにより、機器を適切に活用する能力を伸ばしたい。
2. (生徒観) ダイオード、トランジスタ等といった半導体電子部品の名称はよく知っているし、情報伝達のための電子機器への興味は非常に大きいものがある。しかしながら、半導体の特性や作用、半導体部品のはたらきについての知識はほとんどない。
3. (指導観) 半導体部品をミクロ的にとらえた知識理解にのみかたよることなく視覚化、数量化することにより、その理論面の理解を助けるようにしたい。

5. 指導過程

課題の構成・提示	課題への取り組み方と		
	生徒の活動	留	
		認知的	態度的
半導体の特性とダイオードのしくみを思い出そう			○グループ内の全員の発言によって確認する。
ダイオードのはたらきを調べよう	<ul style="list-style-type: none"> ○ダイオードの導通試験を行なう。 ○電池、豆電球、ダイオードを使って実験回路をつくる。 ○順方向、逆方向に電圧を加え、豆電球の点燈をみる。 ○実験結果をまとめ、ダイオードのはたらきを考える。 ○グループで話し合い発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○回路計の黒テスト棒が内部電池の十側であることを確認する。 ○順方向では点燈、逆方向では点燈しないかを見る。 ○整流作用について、個人でしっかりまとめる。その考えをもとにグループで話し合いまとめあげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験を行なうものと記録するものと仕事の分担をきめ協力して実験をすすめる。 ○班内全員の協力で組み上げるようにさせる。 ○理解しにくい生徒が積極的に、実験にとりくむ実践的な態度を養う。結果については全員が確認する。 ○他のグループの発表をきき足りない分はおぎない、つけ加えることがあれば順次発表させる。
ダイオードのはたらきをまとめよう	<ul style="list-style-type: none"> ○豆電球の点燈、導通試験、図記号の関係をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○順方向とダイオードの図記号を照らし合わせて記憶すると理解しやすい。 	

3. 指導計画	6 時間
第 1 次	半導体の特性とダイオードのしくみ	2 時間
第 2 次	ダイオードの整流作用	1 時間 (本時分)
第 3 次	トランジスタの特性としくみ	2 時間
第 4 次	トランジスタの増幅作用	1 時間

4. 本時の目標

- | | |
|---------|--|
| 1. 認知目標 | 1. ダイオードの順方向には電流を流すが、逆方向には電流を流さないという整流作用を実験を通して理解させる。 |
| 2. 態度目標 | 1. 本による知識理解にとどまることなく、実験を協力して、積極的にすすめながらダイオードの働きを理解するという実践的な態度を育てる。 |

援 助 ・ 指 導			学 習 効 果 の 測 定 と 目 標 達 成 状 況 の 評 価
意 点			
基礎的 基本的 事項	教育機器の利用	援助の仕方	
<ul style="list-style-type: none"> ○半導体の性質 PN接合 ○回路計は抵抗レンジ ○豆電球、ダイオードの定路値は正しく選ばれているか。 ○順方向、逆方向の意味。 ○整流作用について科学的な言葉でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○OHPにより問題を提示する ○OHPにより、実体配線図を示し、グループ内で回路を確認させる。 ○実験結果をトラペんに記入させ、OHPにより発表させる。 ○グループの発表に、図記号との関係をつけ加えてOHPにより示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○順方向、逆方向の抵抗を調べていることを知らせる。 ○机間巡視。 ○まず個人で考えさせ、グループ内で話し合うことによりまとめるように指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ダイオードのしくみを示す図を説明することができるか。 ○導通試験を行なうのはなぜか正しく理解できているか。 ○正しく回路が組み上げられたか。 ○ダイオードのはたらきがまとめられたか。 ○他のグループの発表と比較しながら聞いたか。 ○ダイオードのはたらきがわかったか。 用途を考えた上で図記号をかくことができるか。

1. 題材 幼児の生活（遊びを中心とした生活）
2. 考え方
- 1.（題材観）幼児の生活は遊びが中心である。遊びの中で心身が発達していく過程を理解させ、その成長発育を助成する遊びと、遊び道具について考え、幼児の生活についての理解と関心をもたせる。
 - 2.（生徒観）幼児の観察記録、保育園の見学等で保育学習に期待と興味をもってきているので、この機会に自分の生いたちについても家族ともども語りあい、成長のかけには大きな愛情があったことを認識させる。
 - 3.（指導観）教育機器を活用して、保育学習への意欲づけをし、学習のねらいをはっきりさせる。それによって主体的に学習する態度及び学びとる力を高め、更に豊かな心情と人間関係を育てて現在の生活に対応させたい。
5. 指導過程

課題の構成・提示	課題への取り組み方と		
	生徒の活動	留	
		認知的	態度的
<p>幼児にとって遊びはなぜ大切なんだろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児の生活のようすはどうであったか。 ○ 幼児の遊び道具はどんな条件をそなえていなければならないか。まとめて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遊びは幼児にとって大切な生活であることを理解させる。 ○ 既製品以外のものに興味をもって遊ぶ理由を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中心課題をみつけださせる。
<p>幼児の遊び道具を考案しよう</p> <p>○ 修正しながら考えをまとめてみよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ あらかじめ製作しようと考えている遊び道具は条件にあってるかグループで検討する。 ○ 考案した遊び道具についてグループで発表する。 ○ 発表したものを全体で修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然界、生活用具の中から求められることを気づかせる。 ○ 条件にあった遊び道具を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループの意見をよく聞き、さらに自分の考えをまとめ、話させる。 ○ 問題点をみつけ出し創造思考させる。
<p>製作できるかどうか確かめよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 製作する遊び道具の形・大きさ・材料を確認する。 ○ 学習記録をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年令・使用目的・構想面等についてたしかめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで協力して製作しようとする。

3. 指導計画 8 時間
- 第 1 次 幼児の 1 日の生活習慣 1 時間
 - 第 2 次 幼児の遊びと遊び道具 2 時間
 - 第 3 次 考案・製作 4 時間 (本時分第 1 時)
 - 第 4 次 遊ばせ方 1 時間

4. 本時の目標

- 1. 認知目標
 - 1. 幼児の観察記録から、あそびの重要性と成長発達をささえる条件を理解させ心身の発達の助成となる遊び道具を考案させる。
- 2. 態度目標
 - 1. 主体的に学習にとりくむ態度と優しさ、おもいやり、温さ等の心情を育てる。

援助・指導			学習効果の測定と 目標達成状況の評価
意 点			
基礎的 基本的 事項	教育機器の利用	援助の仕方	
<ul style="list-style-type: none"> ○遊びと遊び道具の重要性を知る。 ○幼児に適した遊び道具の条件を知る。 ○幼児(4・5才)が創作できる道具が考案できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○OHP 幼児の遊びの傾向と遊び道具の条件をつかむ。 ○OHP 適時修正させ構想をねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観察記録から学習への意欲づけをする。 ○保育園での指導の一例から課題の解決への助成をはかる。(フィードバック) ○幼児(4・5才)が創作できる遊具について考案させることに焦点をおかせる。 ○考案のときの基本条件が幼児の生活に適応されたものであるか確認させる。(チェック) 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児に適した遊びと遊び道具の条件が理解されたか。 ○創造思考の過程でグループ全体の活動はどうであったか。 ○創造する過程で幼児への心情と発達に応じた生活が理解できたか。 ○幼児(4・5才)が創作できる遊具の考案ができ、幼児への関心が高まったか。 ○研究・実践についてのまとめ

1. 題 材
2. 考 え 方

誘導電流

1. (題材観) 電流によって磁界が生じること、磁界中では電流が力をうけることを学習してきた。この学習を基礎として、これとは逆に、磁石をつかって電流を得る方法を取り扱い、運動エネルギーと電気エネルギーとの総合的な見方を養うためこの題材を設定した。
2. (生徒観) 磁界内でコイルを動かすだけで電流が流れるとは予想できないと思われる。また、コイルを動かすことの意味をコイルのまわりの磁界の変化としてとらえにくいものと思われる。
3. (指導観) 演示実験によって興味を喚起させながら問題をつかませ、実験を計画させ、帰納的に法則を発見していくように扱いたい。

5. 指 導 過 程

課題の構成・提示	課 題 へ の 取 り 組 み 方 と		
	生 徒 の 活 動	留	
		認 知 的	態 度 的
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">磁界内で導線を動かしてみたら導線に電流が流れるだろうか</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題について話し合い予想をたてる。 ○ 演示実験をみる。 ○ 予想通りいかなかった理由を考える。 ○ 再び、演示実験をみる。 ○ 演示実験をみて気づいたことについて話しあう。 (小集団バズ → 全体発表) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 実験結果をうのみにしないで、さらに深く探求してみようとする態度をもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">コイルに磁石を出し入れして、生じる電流の向きや大きさについて調べてみよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実験の目的や方法について話し合う。 (小集団バズ → 全体発表) ○ 実験の準備をする。 ○ 実験をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ コイルのまわりに磁界の変化が生じるとコイルに誘導電圧が生じ回路が閉じていると誘導電流が流れることに気づかせる。 ○ 誘導電流の強さは磁界の変化の速さが大きいほど強いことに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんなが自分の考えをもって話し合いに参加するようにさせる。 ○ 役割を分担し、協力して、実験を進めるようにさせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習したことをまとめよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実験結果を図解してまとめ発表する。 		

3. 指導計画 3 時間
 第 1 次 コイルと磁石で電流を流すにはどうしたらよいか 2 時間 (本時分第 1 時)
 第 2 次 誘導電流を流し続けるにはどうしたらよいか 1 時間

4. 本時の目標

1. 認知目標 1. コイルに磁界の変化をあたえると、誘導電流が流れることを確認し、その向きや大きさについての法則性を発見できるようにする。
 2. 態度目標 1. 実験や集団討議をとり入れた学習を通して積極的に班学習に参加し、協力して学習を進めていこうとする態度を育てる。

援助・指導			学習効果の測定と 目標達成状況の評価
意 点			
基礎的 基本的 事項	教育機器の利用	援助の仕方	
<ul style="list-style-type: none"> ○電流を流すためには、コイルのまわりの磁界に変化を与える必要があることをおとさない。 ○磁界の変化の速さと電流の強さの関係をおとさない。 ○磁界の変化の方向と電流の向きのおとさない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 演示実験でみんなに検流計の針の動きがわかるようにするため OHP 用 検流計 を用いる。 ○ まとめを OHP で提示し確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんなが関心をもつように根拠を明らかにして考えを発表するようにしむける。 ○ 次の実験の目的や方法についての見通しをたてることができるように磁界の中でコイルを速く動かしたり、おそく動かしたり、止めたりして演示してみせる。 ○ マイクロアンペア計の針のふれから回路に流れる電流の向きを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 磁界の中の導線に電流を流すと導線が動くことと、その理由を説明することができるか。(発表させてみる) ○ 実験によって、何と何の関係を、どういう方法で調べていけばよいかを説明できるか。(発表させてみる) ○ 検流計の針の動きから回路に流れる電流の向きが図示できるか。(発表、挙手) ○ 磁界の変化の方向と誘導電流の向き、変化の速さと電流の強さの関係を理解してまとめられたか。(OHP で発表させる。相互評価) ○ 態度参加度の評価。(評価表に記入させる。自己評価) ○ 今日の授業は自分にとって充実していたか。 ○ 話し合いでは自分から進んで意見をのべたか。

1. 個と集団の統合・止揚

バズ学習を通して、人間関係を高め、自己訓練のできる人間、人間性豊かな人格の形成をめざすとともに、効果的な学習の方法を身につけさせ、基礎学力の定着をはかる。さらに、聴覚や言語能力の向上をめざす。

2. 生徒の実態

本校の難聴生徒がもつ問題には、次のようなものがある。学習面においては、学習の方法がわからない、授業中に聞きもらしや疑問点があっても、その解決方法がわからない、また、友だちや教師に質問することがはずかしいという性格面での弱さ等の問題を持っている。さらに、情緒面では、障害に対する甘えをもち、依頼心が強く、ひじょうに自己中心的で、他人に対する思いやりにも欠ける面がある。

3. 活

4. 活動の過程

区 分	生 徒 の 活	
	課 題 の 構 成	個 と 集 団 の 取 り 組 み 方
復 習 バ ズ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 態度的目標を決め、確認しよう。 ○ 学習の中から、疑問点や復習したいことがらを見つけ、考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各自で目標を決め、ことばで発表する。 ○ リーダーは、各自の目標を復唱して、全員がわかったかどうか確認し、記録する。 ○ リーダーの指示に従って、各自で疑問点や復習したいことがらを考え、ことばで発表する。 ○ リーダーの指示に従って、各自で問題にとりくむ。 ○ グループで話し合う。 ○ グループで解決できないことを全体で話し合う。
生 活 バ ズ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一日の生活と学習の反省をしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「聞く」「話す」態度、態度的目標の反省を各自で行う。 <li style="padding-left: 20px;">↓ ○ グループで点検し合う。 <li style="padding-left: 20px;">↓ ○ リーダーは、まとめて記録する。 ○ 生活の反省を各自で行う。 <li style="padding-left: 20px;">↓ ○ グループで点検し合う。

本学級では、1年生が7名在籍しており、4名と3名の2班に分けている。3名のグループは学力面、聴能、言語面とも、ほぼ等質のグループであるが、4名のグループは、聴能、言語面に著しい遅れのある男子生徒1名と学力面で著しい遅れのある女子生徒1名を含むグループである。1年生は、この方法に十分慣れていないが、意欲的にとりくもうとする態度がみられる。

動の概要

バズ学習での聞き方、話し方、協力のし方、リーダーの役割、自分達で解決できない問題は、先生に質問に行くことなどの基礎的なルールを身につけさせることに重点をおく。そして、協力することの大切さを体験させ、わからないところをそのままにしないという態度や聴能、言語面の能力を高めたい。

行)

の向

力し

動	教師の援助と指導
<p>まとめ(要約と問題点)・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全員にわかるように発表できたか。 ○リーダーの発言は、適切であったか。 ○発表を真剣に聞こうとしたか。 ○全員の目標がわかったか。 ○すばやく課題にとりくめたか。 ○課題に真剣にとりくめたか。 ○全員が協力して課題にとりくめたか。 ○全体での話し合いによって深めることができたか。 ○わかったこと、わからないことをはっきりさせたか。 ○真剣に反省しているか。 ○正しく相手を評価しているか。 ○リーダーは、適切なまとめ方ができているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特に聴能、言語に問題のある生徒には、正しくはっきりと発表させるように配慮する。 ○全員がわかるまで教え合うよう指示する。 ○深化をはかるために適切なヒントを与える。 ○全体で話し合う場合には、特に声の大きさや話し方に気をつけさせる。 ○自分達の力で解決できなかった問題や時間内に解決できなかった問題をそのままにしないように指示する。

と
面

すと導
を説明

を、
よい

流れ
。

の向
の関
。評価)

評価)
実し

意見

中学校の部

第2校時

10 : 40 ~ 11 : 30

1. 題 材 ヒロシマのうた

2. 考 え 方

1. (題材観) 原爆投下直後のヒロシマの地獄のような状況の中で、死に直面しながらも我子をしっかりと抱き続ける母の愛、その姿に心うたれて、赤子を救おうとする「わたし」、そして、その後の苦難にくじげず生きていく被爆者の親子やそれを励ます「わたし」の生き方を通して、戦争に対する限りない怒りと共に、しかし、平和への願いや人間の愛は奪うことのできないものであることが静かに伝わってくる作品である。
2. (生徒観) 戦争に対するカッコよさにひかれる生徒や無関心派、また、頭の中では「こわい、イヤだ」と言いながらも、「その時になったら逃げる、死んだ方がまし」等の逃避的傾向の者がある。しかし、原爆被害の写真展を観て、激しい怒りをもつ生徒でもあるので、心情に訴えて考えさせたい。

5. 指導過程

課題の構成・提示	課 題 へ の 取 り 組
	生 徒 の 活 動
祖父母・父母の戦争体験を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に聞いて書いておいた経験談を発表する。
「現在の核兵器の貯蔵」の資料をみて考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ○資料をみて気づいたことをメモする。 ○数人が気づいた点、考えたこと等を発表する。
自分のくらし、生き方とかかわらせて、戦争と平和について考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ○今までの学習を通して、戦争や平和について、自分の考えがどのよう に変わったか班で話し合う。 ○発表する。 ○戦争を防ぎ、平和を実現するためにどう考え、何をしなければなら ないかを班で話し合う。 ○発表する。
自分の考えや感想をまとめて書こう	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートにまとめる。

3. (指導観) 戦後三十余年たつが、核兵器の貯蔵量は今も増大しており、私たちは、核戦争の危険の中に生きている。
 作品に対する深い感動を基礎に、自分の問題、将来の生き方の問題、世界全体に目をむけて人間の連帯の必要性として受けとめ、考えさせたい。

3. 指導計画	6 時間
第1次	原爆による被害、時代背景をつかむ	1 時間
第2次	「ヒロシマのうた」を読み共感する	4 時間
第3次	現代の自分のくらし、生き方とかかわらせて考える	1 時間 (本時分)

4. 本時の目標 1. 作品の感動を基礎に、父母の戦争体験、現実の核兵器の貯蔵の状況、自分たちのくらし、行動とかかわらせて、戦争と平和、人間の生き方を自分の問題として考えさせる。

み 方 と 援 助 ・ 指 導	
留 意 点	学習効果の測定と目標達成状況の評価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 祖父母・父母が戦争についてどのように考えていたかに注意させる。 ○ 姫路の慰霊塔 (全国空爆被害) の数字等も資料として発表させる。 ○ 今まで自分の知っていたことと比べて考えさせる。 ○ 作品の登場人物の考え方や生き方から影響された考え方も参考にさせる。 ○ さまざまな考え方を自由に出させる。 ○ 他の人の考えと比べたり、自分の考えの変化等も詳しく書くようにさせる。 ○ 感想文の完成は家庭学習とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近かな経験や事実を真剣に聞けたか。 ○ 戦争と平和の問題を自分の問題として考えられたか。 ○ 自分の意見や考えが整理して書けたか。

1. 個と集団の統合・止揚

人間関係を基盤にした学習集団の育成を旨とし、競争の人間関係から協調し合い、支え合い、助け合いながら学習バズを通して基礎学力の定着をはかる。

生活バズを通して人間関係を高め、学習の基盤となる学級集団の育成をはかる。

3. 活

2. 生徒の実態

本学級の生徒の特徴としては、入学をしてすぐにグルーピングの形成を取り入れたので、中学生活での終りの学活はこの形しか知らない。従ってグループ活動に対して何の違和感も持たない。活動は活発に行なうが、はじめに欠ける面がある。グループ編成に対しては全てのグループがその活動が円滑になるまでは決して再編成を行なわない。また学級目標、日番活動に於ても完全に

4. 活動の過程

区 分	生 徒 の 活	
	課 題 の 構 成	個 と 集 団 の 取 り 組 み 方
生 活 バズ	<ul style="list-style-type: none"> ○セブンタイムに入る前に気持ちを整えよう。 ○一日の生活についてグループで反省し話し合おう。 	<p>黙想</p> <p>◎学校生活について反省する。 個人の反省……きょう一日どうだったか、 ↓ 個人ノートに記入 班の意見をまとめて班日記に記入し発表する ↓ 問題点、守れなかったことについての解決、申し合せ</p> <p>○日番の活動について話し合う……評価</p> <p>○一日の健康状態について話し合う。</p>
学 習 バズ	<ul style="list-style-type: none"> ○一日の学習の歩みをたしかめよう。 	<p>◎きょうの学習内容をたしかめる。 個人思考—個人ノートに記入 学習長 一日の総括</p> <p>グループごとに復習→質問疑問点の提示 各教科委員から学習内要の要約の発表 疑問点の解決→発表</p>
連 絡	<ul style="list-style-type: none"> ○各係委員からの連絡や指示を聞こう。 	<p>○メモをする。</p>

遂行できるまで次の段階へは進まないようにし、物事の徹底をはかっている。
 今後の課題としては男子のリーダーの台頭が望まれる。

活動の概要

各グループ共、学力面、性格面で片よりのないように編成時に配慮をしているが、難聴生徒や低位な条件にある生徒がグループの中でどれだけ生かされているか。また、それらの生徒に他の生徒がどれ程配慮しているか。リーダーは他のメンバーをどれ程よくリードしているか、その逆に一人舞台になってはいないか。自分の意見を発表する立場から、人の意見を聞く立場への態度の切り替えができてきているかに焦点をあてる。目標に向かって全員がまとまりながらもその中に個が十分に生かされているかに留意する。

動	教師の援助と指導
まとめ(要約と問題点)・評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○「集団づくりの指標」を基盤に考える。 ○校則違反はなかったか。 ○自分の考え方がはっきり言えたか。 ○協力して意見を調整することができたか。 ○新しい目標に移ることができるか。 ○他人に対して正しい評価ができているか。 ○保健室に世話にならなかったか。 ○各教科の中で空白の状態になっているところはないか。 ○各教科の一時間の流れがつかめたか。 ○朝のHRで検査 → 評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○落ちついた気持で自己反省できるように配慮する。 ○一部の者の意見に片よらないように配慮する。 ○班の話し合いの輪の中から抜け出ているものはないか、机間巡視をする。 ○教師の目の届かない面が表われたならば今後の参考にする。 ○奉仕の精神を習得させる。 ○生徒の健康状態に留意する。 ○安易な問題でも互いにいいねいに教え合うように留意する。 ○深化拡大がうわすべりにならないようによく聞き見て話し行動化するようにする。

1. 個と集団の統合・止揚

生活バスを通して、他者と共に自己実現のできる人間の育成を旨とし、また、個人が、十分に生かされるような集団を養成する。

学習バスを行なうことにより、集団の人間関係を望ましいものにするとともに、個人の学習と集団としての学習を両立させ、全員の基礎学力の定着と、個人に応じた能力の伸長を旨とする。

2. 生

3. 活

4. 活動の過程

区 分	生 徒 の 活	
	課 題 の 構 成	個 と 集 団 の 取 り 組 み 方
生 活 バ ス	<ul style="list-style-type: none"> ○今日の学校生活についてグループで反省し、話し合おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校生活全般について <ul style="list-style-type: none"> ・個人で反省する ・生活係が、各班員と班全体の反省をまとめる。 ・生活長が各班の反省をまとめる。 ○美化委員が清掃の状態について報告する。 ○生活長が話し合うべき問題点を提起する。 <ul style="list-style-type: none"> ・それについて班で話し合う。 ・全体で話し合う。 ・生活長がまとめをする。 ○日番の仕事について反省する。
連 絡	<ul style="list-style-type: none"> ○各係からの連絡を聞こう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今日の授業の宿題と、次時の準備について教科係が発表し、各自確認する。 ○明日の授業の準備について、教科係が発表し、各自メモをとり、確認する。
学 習 バ ス	<ul style="list-style-type: none"> ○今日の学習のまとめをし、疑問点を解決しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科係の指示により、個人で要点、疑問点をバズノートにまとめる。 ○各班で学習係がまとめる。 ○教科係が、各班の発表をまとめ、要点を整理し、疑問点を提示する。 ○各班で疑問点について考える。
連 絡	<ul style="list-style-type: none"> ○教師からの連絡や話を聞こう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体で疑問点の解決をする。

生徒の実態

本学級の生徒は、1年余り日番の司会によるH.R.を経験し、バス形式のH.R.に変えてから5ヶ月間経つ。一応形式には慣れ、スムーズに活動するようにはなっているが、生活バス、学習バスともに十分な深まりに少し欠ける面がある。なお、本学級には、難聴生徒2名(男子1,女子1)がおり、聴能、言語面、学習面で著しい遅れのある男生徒1名を含んでいる。

活動の概要

バス学習での聞き方、話し方、協力の仕方、リーダーの役割等に習熟させながら話し合いを深めさせ、生活バス、学習バスともに十分な効果を上げたい。

また、学習バスによって、学習技能(要点をまとめること等)を身につけ、主体的に学習できる生徒にしたい。

動	教師の援助と指導
<p>まとめ(要約と問題点)・評価</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○誠実に反省できたか。 ○事実に基づいた問題点が出されているか。 ○発表されたことの中から問題点として適切なことを話題にしているか。 ○問題を各自の問題として受けとめ十分深まりのある話し合いができているか。 ○日番担当の班の自己評価と他の班員の他者評価。 ○明朝のH.R.で評価。 ○要点が的確にまとめられているか。 ○疑問点が出せるだけの深まりある復習ができてきているか。 ○わからなければ、他の人に聞き、わかっていたら教えることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○静かな心で今日一日の反省ができるように配慮する。 ○相互評価が厳しくなされているか、生徒の反省する態度に留意する。 ○話し合いを深めるために、焦点を絞るよう助言する。 ○全体討議のとき、発表者が全員に聞こえるように体の向きや、声の大きさに配慮しているか。また、聞き手は発表者の方を向いて、積極的に聞いているかに留意する。 ○安易な問題でも、疑問点として素直に出し、それについて、ていねいに教え合うように留意する。 ○思考の深化、拡大ができるように、必要があれば助言する。

いばならない
多かった。
生活バスを形

話し合い

指導

ているか、形
いか、机間巡

られるように

する。

に、補足、修

導する。

1. 個と集団の統合・止揚

生活バズ、復習バズを通して、学級内での協調、助け合い等の人間関係を高める。そうした中で学習集団としての学級の生徒が学力面での競争的關係から脱皮して、自分の個性を生かし、自己実現をめざす生徒に育てたい。

2. !

3. ;

4. 活動の過程

区 分	生 徒 の 活	
	課 題 の 構 成	個 と 集 団 の 取 り 組 み 方
生 活 バズ	<ul style="list-style-type: none"> ○セブンタイムに入る前に気持ちを整えよう。 ○一日の生活について班で反省し話し合おう。 	<p>黙 想</p> <ul style="list-style-type: none"> ○止揚ノートの記入 ○一日の生活について反省する。 <ul style="list-style-type: none"> （個人の反省 （班内での話し合い（生活バズノート） 全体発表……生活長まとめ ○一日の健康状態について話し合う。 ○美化委員からの報告。 ○クラス全体への提案・意見 ○日番の反省
復 習 バズ	<ul style="list-style-type: none"> ○今日一日の学習のポイントをたしかめよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今日の学習の内容をたしかめる。 <ul style="list-style-type: none"> 個人——学習内容の要約（復習バズノート） （班内でのまとめ 全体発表 疑問点について討議 ……学習長まとめ
連 絡	<ul style="list-style-type: none"> ○先生からの連絡を聞こう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○メモをとる。

生徒の実態

本学級の生徒は、生活バズの話し合いにおいて、班内、クラス内で改善しなければならない問題がなかなか出てこない。知っていながら見て見ぬふりを決めこんでいる場合が多かった。生活バズノートで点検するようになってから、少しずつ変わって来ているので、生活バズを形式的に流してしまうことのないようにしたい。

舌動の概要

バズ学習での聞き方、話し方、協力の仕方、リーダーの役割等に習熟させながら、話し合いを深めさせ、生活バズ、復習バズともに十分な効果を上げたい。
 復習バズでは、授業の流れをつかませるように指導したい。

動 まとめ(要約と問題点)・評価	教師の援助と指導
<ul style="list-style-type: none"> ○一日目標、掃除、風紀面についてきちんとできたか。 ○真剣に話し合えたか。 ○日番活動をきちんとできたか。 ○今日の学習のポイントは何かであったか。 ○自分の考えをはっきり発表できたか。 ○要領よくまとめて発表できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○班内の話し合いに全員参加しているか、形式的な話し合いになっていないか、机間巡視をする。 ○自分の健康管理を自分で考えられるように指導する。 ○奉仕精神で活動するよう指導する。 ○筋道をたてて発表できるように、補足、修正を加えて指導する。 ○積極的に疑問点を出すよう指導する。

を
う
き
、
を
で
うに
走の
よう
える
して
向い
。
出し、
うに
要が

1. 題 材 足指に生きる

2. 考 え 方
1. (題材観) 健康な人でさえ、生きることには挫折感をもつものが多いのに、両手も使用できず、足指に命をかけて、生きてきた障害者の半生記は、私たちに、人間として生きていくことの尊さを深く学びとらせるのに、適したものと思う。
 2. (生徒観) 障害児学級を持つ本校であり、また難聴生を含む学級でもある。障害者への理解は深まりつつある。しかし障害者が、それをのりこえ、努力していく姿をするどくみきわめていくことで、さらに実践していける集団に高めていきたい。
 3. (指導観) 障害や逆境に負けずそれを克服し精一杯、人間として生きていく姿を筆者の半生記「足指に生きる」を通して、その経過を追いつつしっかりと学びとらせる。

5. 指導過程

課題の構成・提示	課 題 へ の 取 り 組
	生 徒 の 活 動
<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">事件前と事件後とは、彼女の心は、どう変化したのだろうか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自殺をはかるまでと、その後の心は、どう変わったのか。 ○グループ全体で話しあう。
<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">彼女が文字を書くようになった力は、どこから生れたのだろうか</p> <p>○読書への関心は、何が動機だったのでしょうか。</p> <p>○どんな苦勞をして字が書けるようになったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○施設訪問の時、彼女は何をみつけ、また心に強く残り、行動に移していったことについて考えていく。 ○何を文字によって伝えようと彼女は、必死で努力したのかを、グループや全体で考えていく。
<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">今日の学習を確かめてみよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○左足指に全生命をかけて生きていく姿を再度確かめあう。 ○グループで話しあい確認する。 ○次時の学習に対する指示を聞く。

3. 指導計画	5時間
第1次	障害者として生きる私	1時間
第2次	・私も学校に行きたい ・文字が書きたい	・さみしさの中で ・自分の力で立てた (本時分第2時)
第3次	ささえあい、励ましあって生きる	1時間

4. 本時の目標

1. 手紙を書くことになった動機や、ひとりの障害者が必死の思いで文字を書こうとして、あらゆる努力をしていく過程を深く学びとらせる。
2. 学級にも難聴生徒がいる。障害者の精一杯の生き方を学ぶことにより、その人たちへの正しい理解と励ましの心を持ち、集団としても態度で示せるようにしたい。

み 方 と 援 助 ・ 指 導	学習効果の測定と 目標達成状況の評価
留 意 点	
<p>○死という事件を転機に生への執念をかりたてたものは、何であったかに気づかせたい。</p> <p>○文字を自らのものにしていく必死の努力、そして孤独からあたたかい人間のきずなをとりもどしていく姿をつかませたい。</p> <p>○ただ一つ残された左足指を命の綱として、その一点に全生命をかけていく彼女の生きざまを学びとらせる。</p>	<p>○自殺しようとした時の心情がつかめたか。</p> <p>○文字を書こうとした彼女の心の変化をつかむことができたか。</p> <p>○グループでの話しあいに、よく参加できたか。また、自分の意見も出せたか、相互に確かめる。</p> <p>○彼女の強く生きようとする姿から自分の生き方をどうみなおしたか。</p>

セブンタイム指導案（難

1. 個と集団の統合・止揚

バズ学習を通して人間関係を高め、自己訓練のできる人間、人間性豊かな人格の形成をめざすとともに、効果的な学習の方法を身につけさせ、基礎学力の定着をはかる。さらに、聴覚や言語の能力の向上をめざす。

2. 生徒の実態

本校の難聴生徒がもつ問題には次のようなものがある。学習面においては学習の方法がわからない、授業中に聞きもらしや疑問点があってもその解決方法がわからない、また、友だちや教師に質問することがはずかしいという性格面での弱さ等の問題をもっている。

さらに、情緒面では障害に対する甘えをもち、依頼心が強く、ひじょうに自己中心的で他人に対する思いやりにも欠ける面がある。

3.

4. 活動の過程

区 分	生 徒 の 活	
	課 題 の 構 成	個 と 集 団 の 取 り 組 み 方
復 習 バズ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 態度的目標を決め確認しよう。 ○ 疑問点、復習したいことがらを確認し、考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各自で目標を決め、ことばで発表する。 ○ リーダーは各自の目標を復習して全員がわかったかどうか確認し、記録する。 ○ 各自の疑問点、復習したいことがらをリーダーの指示にしたがってことばで発表する。 ○ リーダーの指示により、各自で問題にとりくむ。 ○ グループで話し合う。
生 活 バズ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一日の生活と学習の反省をしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「聞く」「話す」態度、態度的目標の反省を各自で行う。 ○ グループで点検し合う。 ○ リーダーはまとめて記録する。 ○ 生活の反省を各自で行う。 ○ グループで点検し合う。
連 絡	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次時の課題を確認しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで話し合い、次時の課題を確認する。

本学級には2年生が3名、3年生が5名、計8名が在籍しており、2年生(3名)と3年生(5名)の2つの班に分けている。3年生5名のグループは聴能、言語面ともほぼ等質のグループであるが、2年生3名のグループは聴能、言語面、学習面でも著しい遅れがある男生徒1名を含んでいる。

本学級の生徒は昨年よりこの方法で行なっているので学習方法は一応習得しているが、そのために話し合いが形式的に流れてしまう傾向がある。

活動の概要

バズ学習での聞き方、話し方、協力のし方、リーダーの役割等に十分習熟させながら、話し合いを深めさせ、効果的な学習方法を習得させる。

また、学習の効率化にも重点をおき、基礎的学力の定着をはかりたい。

動	教師の援助と指導
<p>まとめ(要約と問題点)・評価</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○全員にわかるように発表できたか。 ○発表を真剣に聞こうとしたか。 ○全員の目標がわかったか。 ○リーダーの発言は適切であったか。 ○疑問点、復習したいことがらをまとめて発表できたか。 ○自分の考え、意見がはっきり言えたか。 ○課題に真剣にとりくめたか。 ○全員が協力して課題にとりくめたか。 ○学習内容がわかったか。 ○真剣に反省しているか。 ○正しく相手を評価しているか。 ○リーダーは適切なまとめ方ができているか。 ○次時の課題が確認できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分にふさわしい目標を決めさせるように配慮する。 ○疑問点、復習したいことがらを発表するときには具体的に発表するように指示する。 ○1つの課題にとりくむ時間が適切かどうかたえず点検する。 ○深化をはかるために適切なヒントを与える。 ○2年生のグループは学力差が大きいので、できるだけ教師がグループの中に入って個別に援助する。 ○形式的な反省にならないように配慮する。 ○課題の量が適切か点検する。

1. 題材
2. 考え方

カレーライスをつくる

1. 知恵おくれの子の指導は、その特性からみて、体験的に習得させていく方法が望ましい。そこで、生徒の実生活の中に存在する問題を、彼らの興味や必要感にもとづいて解決していく、つまり問題解決学習を通して生活の仕方(行動の仕方)を身につけさせていこうとする「生活単元学習」は有効な方法だと思う。

本題材は、単元「食生活とわたし」の中に位置づけたものであり、能力差が大きくとも、それぞれに応じた学習活動を用意することが可能な題材である。またひとりひとりを伸ばしながら、集団としての高まりを育てたり、食生活を営むための基礎的、基本的な技能や態度を育成するのにも適している。

2. 本学級の子ども達は、幼い頃より「どうせできないから……」とか「かわいそうだから……」という家族の養育態度からほとんど家では手伝いをするこもなく大きくなってきている。そのために、ガスの点火ができない、ほうちょうを持って野菜の皮むきができない等、経験不足もはなはだしく、また技能的にも著しくおくれがみられる。このような生徒達ではあるが「食べる」ことは大好きである。

そこで、みんなで力をあわせて計画をたてたり、失敗しながらも作ることの喜びを味わせながら、自分達でもやればできるんだという自信をつけさせたい。

3. 今までは、何も考えずに食べていた物を「どんな材料で作られているんだろう」と考えてみる。そこから新しい問題意識が生まれ、解決するための努力がはられる。この過程を大切にしながら、そこで身につけた技能、習慣、態度などが家庭生活でも生かしていけるように指導したい。

6. 指導過程

課題の構成・提示	課題への取り組み方		
	生徒の活動	留	
		認知的	態度的
<p>今までに、どんな手伝いをしたことがあるか話し合おう</p> <p>○みんなの好きなカレーライスを作ろう。</p> <p>カレーライスをつくるには、どんな計画をたてればよいか、みんなで考えよう</p> <p>○どんな材料が入っているかを考えよう。</p> <p>○必要な材料が選べたかどうかを確かめよう。</p> <p>○5人分の材料を計算しよう。</p> <p>○実際に計ってしらべよう。</p> <p>学習したことからを確かめ合おう</p>	<p>○今までに経験したことがある手伝いを発表し合う。</p> <p>○調理実習をするためには、どんなことが必要かを話し合って、発表する。</p> <p>○食品模型の中から材料に適しているものを選び出す。…… A男・B子</p> <p>○今までの経験をもとに、ノートに記録する。…… C子</p> <p>○自分たちで選んだ材料が正しいかどうかを確かめ合う。</p> <p>○1人分の分量を知って、5人分の分量計算を行う。(A男・C子はかけ算で求める)</p> <p>○計算で求めた重さだと、実際にはどれ位の量になるかを、実物を使ってしらべる。</p> <p>○ノート整理をしながら、本時の学習内容を確かめ合う。</p> <p>○次時の学習についての説明を聞く。</p>	<p>○友達の発表を参考にしながら、食事に関する手伝いにはどんなものがあるかをみつけさせる。</p> <p>○「材料」ということばの意味を具体物を通してわからせる。…… A男</p> <p>○材料を6つの基礎食品に分類して、栄養素との関係をまとめさせる。…… C子</p> <p>○1人分の分量がわかれば5人分が計算できることをつかませる。</p> <p>○それぞれの材料100gがどれだけかをつかませる。</p>	<p>○発表する友だちの方をみて話を聞くようにさせる。</p> <p>○A男がわかるように一言一言はっきりしゃべらせる。…… B子・C子</p> <p>○提示された材料と、自分が選んだものとを比較しながら、意欲的に正誤を確かめさせる。</p> <p>○はかりを正しく使わせる。</p> <p>○目盛りを正確によむ習慣をつけさせる。</p>

指導案（精薄学級）

指導者 教諭 竹谷由紀子

3. 指導計画 3 時間
- | | | |
|-----|----------------|-----------|
| 第1時 | 材料がどれだけいるかを考える | 1 時間（本時分） |
| 第2時 | 手順、分担を決める | 1 時間 |
| 第3時 | 用具を知る | 1 時間 |

4. 本時の目標

- 認知目標
 - 調理実習の計画の立て方を身につけさせる。
（特にC子には、食品と栄養素との関係も理解させる）
- 態度目標
 - 意欲的にとりくもうとする態度を養う。
（特にA男には、友達の発表をよく聞く態度を、B子には、大きな声ではっきりと発表する習慣を身につけさせる）

5. 生徒の実態

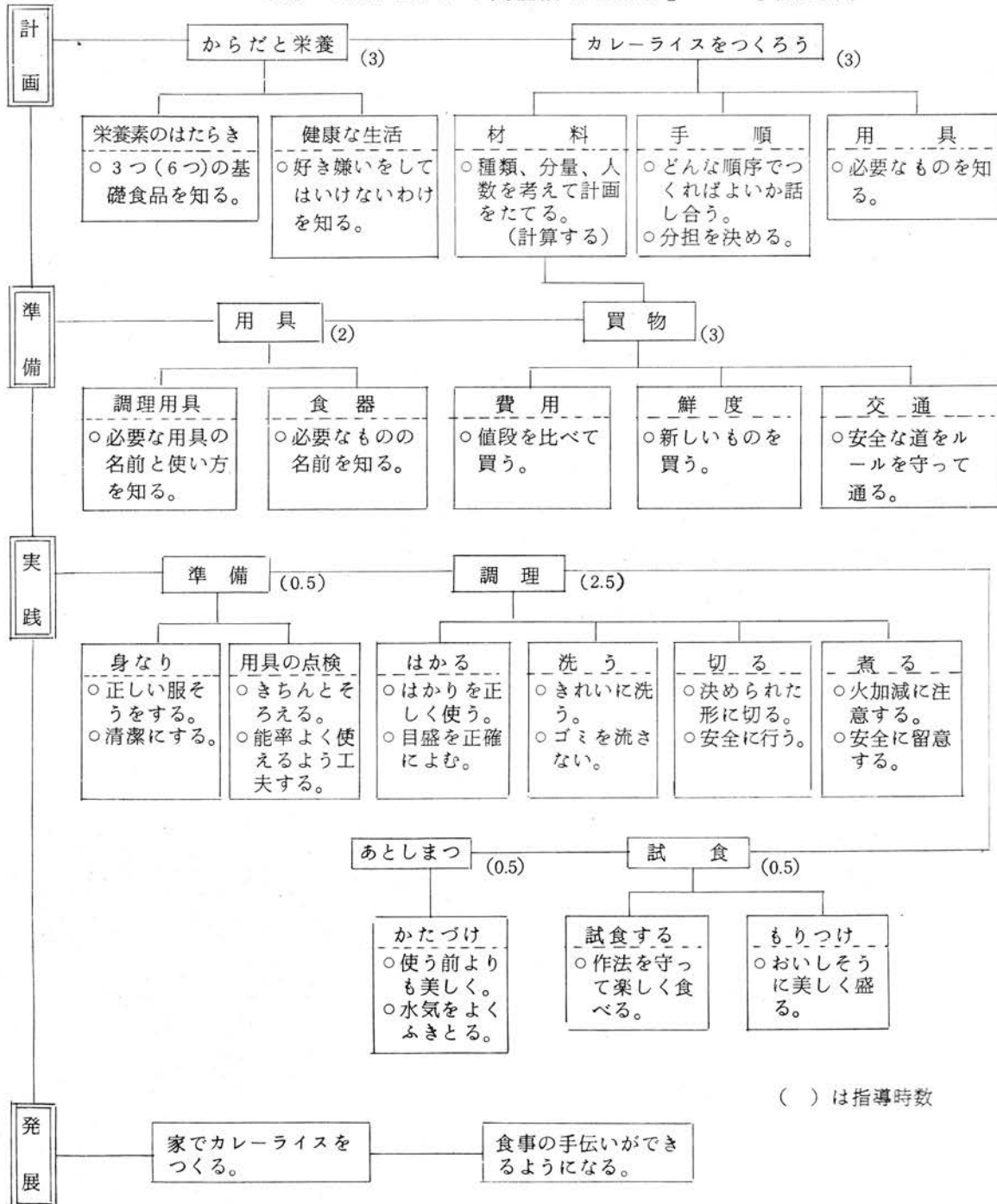
氏名	学年	障害の程度	特 性 等
A 男	2	精神発達遅滞、中度の難聴	根気づよい、理解できることばは400余り、特異な生育歴をもつ
B 子	1	中度の精神薄弱児	固執性が強い、人みしりがはげしい、C子の言いなりになりやすい
C 子	1	場面緘黙児	怠惰、感情の起伏がはげしい

支援・指導

意 点			学習効果の測定と 目標達成状況の評価
基礎的 基本的事項	教育機器の利用	援助の仕方	
<ul style="list-style-type: none"> 食事を計画的に整えるためには材料・分量、手順、分担などが必要なことを理解させる。 どんな材料が必要かを理解させる。 材料計算を正確に行わせる。 ものの重さを知るためには、はかりを利用すれば便利だということを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> OHP、材料を影絵的に映写し、興味づけと確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表をまとめて板書する。 生徒の発表を、カードで示しながらまとめる。 具体物で、材料の意味を示す。 全員に発言させ、補足修正をする。 A男、C子の発表をB子に板書させる。 個別指導を行う。 簡単な記述式のノートを作成しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな声で、はっきりと発表できたか。 友だちの発表をしっかりと聞くことができたか。 食事を計画的に整えるための条件がわかったか。 材料の意味がつかめ、積極的に考えようとしたか。 カレーライスに必要な材料がわかったか。 正しく目盛りがよめたか。 分量のおおまかな目安がつかめたか。 カレーライスをつくる意欲が増し次時への心構えができたか。

- 〈資料1〉 ○ 技術Ⅰ（週6時間）— 主として生活単元学習
 ○ 技術Ⅱ（週2〃）〈 A 男…… 作業的な学習
 B. C子…… 交流学习（技術・家庭科）

〈資料2〉 （例）生活単元学習「食生活とわたし」— 学習過程表—



小学校の部

第1校時

9 : 40 ~ 10 : 25

1. 題 材 たぬきの糸車

2. 趣 旨

- 本題材は、伊豆地方の民話の再話である。この物語は、いたずらたぬきがおかみさんの糸車にすっかり魅せられ、そのとりこになるところから展開する。内容はおもしろく、しかも筋は単純であり、この期の児童には好適の教材である。
- 児童は、昔話を讀んだり聞いたりするのが好きである。しかし、テレビその他の影響で、部分的または断片的な言動や表現にひかれやすく、物語を全体としてじっくり読み深めていくことはできにくい。
- こうした実態に即して、好きなところや、おもしろいところを見つけ出させ、それを登場人物の行動と結びつけることにより、物語の展開を全体としてとらえるように配慮する。また話し合いの学習をとり入れることにより、読みの広がりや深まりを期待したい。

3. 目 標

- たぬきとおかみさんの言動を通して、相互間に深まっていく心の交流を読みとらせる。
- 場面の移り変わりに気をつけ、物語の好きなところやおもしろいところを見つけ出させる。

4. 計 画 (10 時間)

- 第 1 次 全文を通読し、好きなところやおもしろいところを見つけ出し話し合う。…… 2 時間
- 第 2 次 場面ごとの様子を読みとる。 …………… 6 時間
- 第 1 時 きこりは、なぜわなをしかけたのだろう。
- 第 2 時 どうしておかみさんは、ふき出しそうになったのだろう。
- 第 3 時 おかみさんの気持ちは、どう変わっていくのだろう。
- 第 4 時 冬の間、たぬきはどのようにしていたのだろう。
- 第 5 時 おかみさんは、どうして「あっ」と驚いたのだろう。
- 第 6 時 たぬきは、なにがうれしいのだろう。 …………… (本時分)
- 第 3 次 学習のまとめをし、他の民話を読む。 …………… 2 時間

5. 本時の目標

- 「さもうれしくてたまらないというように、びよんびよこおどりながら帰っていく」うれしさの内容を、さし絵の話し合いや動作化により、読み深めさせる。
- 進んで話を聞いたり、讀んだりさせる。

6. 展 開

発 問	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等	評 価
<p>○前時はどんな話でしたか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>たぬきは、なにがうれしいのでしょうか。</p> </div> <p>○たぬきは、どんなにじょうずにつむいだのでしょうか。</p> <p>○たぬきは、なにがうれしくてたまらなかったのでしょうか。</p>	<p>1. 糸車のまわる音が聞こえてきた時の おかみさんの驚きを想起する。</p> <p>2. 学習課題を読み、ノートに書く。</p> <p>3. じょうずな手つきで、つむいでいるたぬきを 想像する。 ○音読する。 ○自由に話し合う。</p> <p>4. びよんびよこおどりながら帰っていく様子を想像し、その時何といったのかを考える。 ○音読する。 ○グループで話し合う。 ○ノートに書く。 ○全体で話し合う。</p> <p>5. 本時学習部分の朗読を聞く。</p>	<p>○「はるになって」のおかみさんの驚きは、たぬきの喜びにひびきあっていることを考えさせ、様子を想起させる。</p> <p>○課題を貼布し、ノートに書かせる。</p> <p>○はっきり、ていねいに書かせる。</p> <p>○おかみさんの気持ちを想像させ、様子が表れていることばをおさえさせる。 ・たぬきが、じょうずな手つきで、 ・おかみさんがしていたとおりに、 ・たばねてわきにつみかさねました。</p> <p>○この喜びは、①まわしたくてたまらなかった糸車をまわした喜び、②じょうずにつむげたうれしき、③恩返し of 気持ちではないかと予見させ、文脈に流れるたぬきの心を考えさせる。</p> <p>○様子を見ているおかみさんの気持ちや、たぬきの喜びを想像させながら聞かせる。</p>	<p>冬の間のさし絵</p> <p>課題表示</p> <p>TP 動作化 たぬきの面</p> <p>ふき出し TP</p> <p>TU</p>	<p>○課題に対する関心を示したか。</p> <p>○人物になりきって動作化ができたか。</p> <p>○気持ちがわかるような読みができたか。</p> <p>○思う存分つむいだ冬の間のことが想像できたか。</p>

1. 小 単 元 ゆうびんのしごとをする人びと

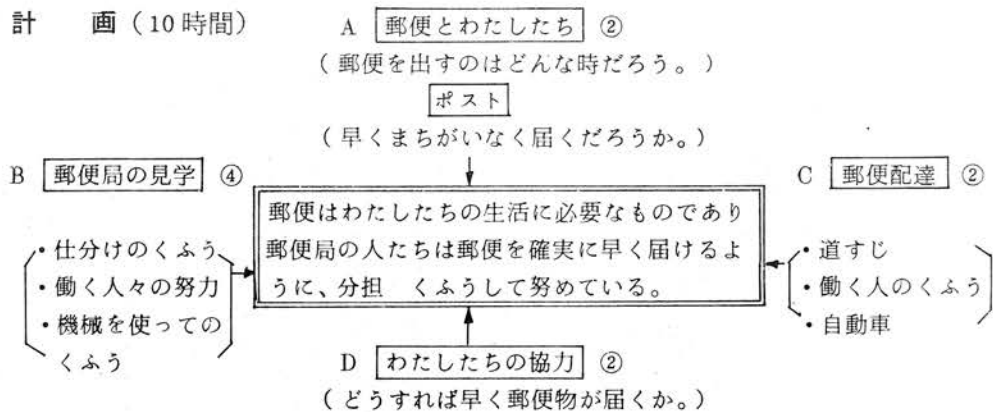
2. 趣 旨

- ポストに手紙を入れる時、相手に思いをさせ、早く届きますようにと願う。「ぼくのはがきとどいた?」「きのう届いたよ。」の確かめの会話を子どもたちはよくするものである。この早く、確かにの二つの願いは、郵便局での様々の物、道具、施設のくふうに表われており、そこに人々の働きがある。
- 子どもたちの殆んどは、夏休みの教師とのやりとり、年賀状での友だちとのやりとり、クイズの応募などで、自分の手で投函している。しかし、集めに来られる郵便のおじさんがその手で配ってくださると 14/32 名が思っており、どうやって届くのかわからない子 12/32 名、おぼろげに郵便局経由がわかっている子はわずかに 6 名である。外国とのつながりなど思ってもいない。
- そこで、ポストに入れる時の願いを大切にしながら郵便局の見学を中心にすえて、観察の目を育てていきたい。仕事をうまく進めるために、くふうされ生かされている物、道具、施設を一つの手がかりとして、仕事や人の働きを具体的にわからせていきたい。また、観察したことを様々に表現していく過程において、物と人の働きの結びつきの追究を深めていきたいと考える。

3. 目 標

- 郵便物の集配に携わる人々は、郵便物を確実に早く届けるよう、分担、くふうして努めていることに気づかせる。
- 道具、施設のくふうを観察する力を高める。
- 見学したことを効果的に表現したり、動作化する能力や態度を養う。

4. 計 画 (10 時間)



5. 本時の目標 (A 次第 2 時)

ポストは、早くまちがいなく届けてほしいとの願いどおりにくふうされていることを、位置構造の観察によって、確かなものにする。

科学習指導案

指導者 高 馬 翠

6. 展 開

発 問	学 習 活 動	指導上の留意点	資料等	評 価
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> ポストにはどんなくふうがされているか調べよう。 </div>				
<p>○見てきたことを発表しましょう。</p> <p>○ポストに手紙を入れる時の願いが考えられているだろうか。</p> <p>○型がちがうとくふうもちがうのだろうか。</p> <p>○開箱回数がちがうのはなぜだろう。</p> <p>○郵便局でもくふうがあるだろう。</p>	<p>1.各自見てきたことについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○位置 向き ○しくみ ○表記されていること <p>2.早くまちがいなく届けるくふうがされているか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○動かない } まちがいなく 鉄、鍵 } 小 小さな口 } ひさし ○時こく表 } 早く 赤色 } あちこち <p>3.筒型と箱型を比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まちがいなく } 同じで ○早く } ある。 <p>4.三か所の開箱回数を比べて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○早く届けるくふうがなされている。 <p>5.郵便局での働きを早くまちがいなくの観点から予想する。</p>	<p>○学習問題をはっきりつかませる。</p> <p>○各自観察してきたことを模型と対比しながら表現させる。</p> <p>○校区図に記入していく。</p> <p>○前時学習の投函時の気持ちを想起させ、ポストのしくみは願いがかなえられるようにくふうされていることに気づかせる。</p> <p>○個→グループ→全体と思考を深めていく。</p> <p>○なぜ箱型に変わったのかの疑問は見学時まで残しておく。</p> <p>○内町4回、郵便局前5回本局前12回の事実から、より早くの配慮を印象づける。</p> <p>○本局の外観をスライドで見せ、見学への意欲を高める。</p> <p>○身のまわりの事実や経験から予想させる。</p>	<p>AN</p> <p>ポストの模型</p> <p>TP</p> <p>社2-11</p> <p>-2</p> <p>SL</p> <p>・異型</p> <p>ポスト</p> <p>SL</p> <p>・三つの</p> <p>ポスト</p> <p>・本局</p> <p>TR</p> <p>・投函者の声</p> <p>AN</p>	<p>○相手によくわかるように表現しているか。</p> <p>○全員発言によって活発な話し合いができたか。</p> <p>○自分が調べたポストとの違いがわかったか。</p> <p>○比較することによって新しい事実が見つけられたか。</p> <p>○ポストにもくふうがあることがわかったか。</p>

1. 題 材 モチモチの木

2. 趣 旨

- 齊藤隆介作「モチモチの木」は、語りの文体をもって描かれた創作民話である。「全く豆太ほどおくびょうなやつはいない。」と語られ自らもおくびょうだと思っていた豆太は、腹痛でうなっているじさまのために、真夜中、半道もあるふもとの村まで医者様を呼びに行った。その帰り道モチモチの木にひがついているのを見る。恐ろしいモチモチの木が美しいモチモチの木として見えたのである。「やさしさ」をもつ故に勇気ある行動をとることができた豆太の姿が、美しい情景描写と民話独特の語りの中から読みとれる教材である。
- 子ども達は、物語文を読むのが好きである。「子牛の話」「太郎こおろぎ」などの学習を通して、ひとつひとつの文章を大切に表象化して読みとることができるようになってきている。筋の展開のおもしろさだけにひかれて読んでいる子もまだあるが、登場人物に対する共感や批判を伴った内面的な読み方をする児童もふえている。
- 指導に当たっては、各場面における人物の様子や気持ちをじゅうぶんイメージ化させ、登場人物になりきって読みとっていくようにしたい。そのためには、文章の展開をたどらせながら表現の優れているところには書き込みをさせるなどして豊かに読みとらせる。なお、この文章の特徴である語りの文体を読み味わうために、文章の調子をつかんで音読するよう指導したい。

3. 目 標

- 夜中に一人でせっちんにも行けないおくびょう豆太が、急病で苦しむじさまを目の前にしたとき、冬のとうげ道を必死で医者様の所へ走る。この「勇気ある行動」は、じさまと二人きりのくらしの中で育まれた「やさしさ」の現れであることをモチモチの木を通して読みとらせる。
- 場面の情景や登場人物の気持ちをイメージ豊かに読みとらせる。

4. 計 画

- 第1次 全文を通読し感想を書いて話し合う……………2時間
- 第2次 場面ごとにくわしく読みとる……………6時間
 - 第1時 豆太はどんな子どもか。
 - 第2時 「モチモチの木」とはどんな木か。
 - 第3時 「モチモチの木にひがついている」のを見ることをあきらめたのはなぜか。
 - 第4時 うなっているじさまを見て豆太はどうしたか。
 - 第5時 おぶわれてりょうし小屋へ帰るとき豆太は何を見たか。……………(本時分)
 - 第6時 豆太が「モチモチの木にひがついている」のを見ることができたのはなぜか。
- 第3次 読後の感想を書き話し合う……………2時間
- 第4次 練習と評価……………2時間

5. 本時の目標

医者様にわけを話す豆太の様子を想像を加えて読みとらせ、「モチモチの木にひがついている」情景とその時の豆太の気持ちをイメージ化させる。

語 科 学 習 指 導 案

指導者 赤 垣 美 智 子

6. 展 開

発 問	学 習 活 動	指導上の留意点	資料等	評 価
<p>○ 医者様を呼びに行く豆太はどんな気持ちだったか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>医者様におぶわれてりょうし小屋へ帰るとき、豆太は何を見たでしょう。</p> </div>	<p>1. 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>○ 《いたくて、さむくて、こわかったからなあ》の文を想起させ本時学習の布石とする。</p> <p>○ 学習課題を貼布し課題の確認を図る。</p>	<p>切り抜き絵</p> <p>課題表示</p>	
<p>○ 医者様にたどりついた豆太は、何と言ったか。</p> <p>○ おぶわれてとうげのりょうし小屋へ帰る道で豆太は何を見たか。</p>	<p>2. 学習課題について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 87ページ6行目から87ページ終わりまでを読みとる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指名音読 ・ ひとり調べをする（教科書に書きこむ） ・ 話し合う。 ○ 88ページを読みとる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指名音読の後ひとり調べをする。（ノートに書く） ・ 話し合う。 <p>3. 学習範囲を朗読する。</p> <p>4. 次時の学習課題を知る。</p>	<p>○ 豆太が言った言葉を想像させ「おう、おうー」にこめられた医者様の人柄を思い浮かべさせながら二人組でもやらせてみる。</p> <p>○ 切り抜き絵を使って《えっちら、おっちら》を理解させる。</p> <p>○ ねんねこぼんでんの中から雪を見ている豆太の気持ちを、医者様のこしをドンドンけとばした行動と合わせ想像させる。</p> <p>○ 「モチモチの木にひがついている」様子をイメージ化させる。</p> <p>○ それを見つけた豆太の気持ちになって表現読みさせる。</p> <p>○ 様子や気持ちを思い浮かべながら読ませる。</p> <p>○ 89ページは教師の範読を聞かせて簡単にすませる。</p>	<p>切り抜き絵</p> <p>T P</p>	<p>○ 医者様に言った言葉を想像を加えて言うことができたか。</p> <p>○ おぶわれている豆太の気持ちを読みとることができたか。</p> <p>○ モチモチの木にひがついている様子がイメージ化できたか。</p>

1. 題 材 面 積

2. 趣 旨

- 本単元では2枚のカードの広さを比べる操作を通し、二次元的な広がりのある量も、長さと同様に、単位とする大きさの図形を決めると、そのいくつか分として数値化できることに気づかせ、そこから普遍単位 1cm^2 について理解させる。さらに 1cm^2 の正方形がいくつか敷き詰められるかを考える工夫を通して面積の公式を創造させるのがねらいである。
- 児童は、第1学年で紙を重ねて広さを比べたり、方眼をぬりつぶして、広さを個数で表わすなどの経験を持っているが、広さの概念として定着していない。
- そこで、まず2枚のカードの広さを「どちらが広いか。」直観や重ね合わせる操作で調べさせさらに、学習課題を「どちらがどれだけ広いか。」へと、しばっていき、広さを数値で表わす必要性に気づかせ、単位とする大きさの図形を決め、そのいくつか分かを数えればよいことを発見させる。また、単位とする図形としては1辺 1cm の正方形が最も明確に測定できることをとらえさせ、普遍単位 1cm^2 を理解させる。 1cm^2 を使っての面積測定の過程で長方形、正方形の面積は、辺の長さを測るだけで計算で求められるということを理解させる。

3. 目 標

- 面積の概念を明らかにし、面積単位 1cm^2 , 1m^2 , 1a , 1ha , 1km^2 を理解させる。
- 長方形、正方形の面積の求め方と、その公式を理解し、これを用いられるようさせる。

4. 計 画 (11 時間)

第1次	カードの広さ	5 時間
第1時	どちらが広いか、直観や重ね合わせて比べる	
第2時	どちらがどれだけ広いか測定する	(本時分)
第3時	1cm^2 を使って簡単な図形の面積を測定する	
第4時	長方形、正方形の面積の公式を発見する	
第5時	公式を用いて面積を求める	
第2次	すな場や花だんの面積	3 時間
第3次	大きな面積	1 時間
第4次	れんしゅう	2 時間

5. 本時目標

- 広さは単位面積を決め、そのいくつか分として数値化すると測定できることに気づかせ、普遍単位 1cm^2 について理解させる。
- 1cm^2 の単位面積を用いてカードの広さを測定できるようにさせる。

学習指導案

指導者 福本和代

6. 展開

発問	学習活動	指導上の留意点	資料等	評価
<p>○どちらがどれだけ広いでしょう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">ア</div> <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">イ</div> </div> <p>○結果はどうなりましたか ○問題点はありますか。</p> <p>○どん図形をもとにして測るとよいでしょう。</p> <p>○1cm²を使って測りなおしましょう。 ○面積はいくらですか。</p>	<p>1. 予習課題の結果を発表する。 ○○○が何個分広いと答える。</p> <p>2. 問題点について話し合う ○すきまや重なり ○それぞれの測定の数値がちがっていること</p> <p>○単位とする図形の条件は何か</p> <p>3. 普遍単位1cm²について知る。</p> <p>4. 1cm²を使ってカードの面積を測定する。</p> <p>5. 練習をする。</p> <p>6. 本時のまとめ</p>	<p>○どれだけちがうかを表わすには数値が必要であることに気づかせる。</p> <p>○すきまなく重なりなく敷きつめられる図形を単位としなければ、測定が不正確であること、また任意な図形で測定すれば不都合が生じることに気づかせ、共通な単位図形が必要であることを発見させる。</p> <p>○同じ広さの正方形を使うと、最も正確に測定できることを知らせる。</p> <p>○世界共通の面積の単位であることを理解させる。</p> <p>○1cm²の正方形の数を数え数値の差から広さの差を導びかせる。</p> <p>○簡単な図形の面積を測定させる。</p>	<p>TP₁ プリント</p> <p>TP₂</p> <p>AN₁</p> <p>TP₃ AN₂ プリント</p> <p>TP₄ AN₃</p>	<p>○測定には正方形が最もよいことがわかったか。 ○単位量いくつ分で○cm²と考えられたか ○1cm²広いと答えられたか ○面積が測定できたか。</p>

1. 題 材 単 位 量 あ た り

2. 趣 旨

- 日常生活のなかでねだんが高い安いなどというとき、単に金額の多少だけでなく、買った数量と払った代金を相対的に比較している。このような例は、ガソリンの使用量が走行距離に比較して多い少ない、面積が人口に比較して広い狭いなどがある。1ℓあたりの走行距離1ℓあたりの人数などの表し方は、一方の単位量に対応する他方の量の大きさをとらえる「単位量あたり」の考え方であり、一般生活のなかで広く用いられている。そこで本題材では「単位量あたり」の考え方を定着させることをねらいとしている。
- 本学級の児童は、同種の量の割合については百分率を中心として「割合」の単元ですでに学習しており、公倍数を用いて異種の二つの量を比べる方法は「整数」の単元で学習している。しかし、「単位量あたり」の考え方で量を比べることは日常生活のなかである程度用いられていても深くその考えを応用できるまでにはいたっていない。
- 速度や人口密度のように、二つの量の組み合わせによりとらえられる量の存在に着目させ、単位量あたりの考え方の必要性をつかませ、さらに、それを用いて二つの量を比べることができるようにする。その場合、具体的な場面を用意し長さや重さのような量と対比させながら児童自身が見つけ出すようにさせる。

3. 目 標

- 異種の二つの量の割合としてとらえられる数量についてその比べ方や表し方を知らせ、一方の単位量に対応する他方の量の大きさから二つの数量を比べることができるようにさせる。
- 速度の意味、および表し方を知らせ、速度を計算で求めることができるようにさせる。

4. 計 画 (9 時 間)

- 第1次 計画と内容について …………… 1時間
- 第2次 単位量あたり …………… 2時間
 - 第1時 単位量あたりの意味を知る。 …………… (本時分)
 - 第2時 単位量あたりの考えで二つの量を比べる。
- 第3次 速 さ …………… 4時間
- 第4次 練習と評価 …………… 2時間

5. 本 時 の 目 標

- 甘さを比べることにより「単位量あたり」の考え方を理解させる。
- 「単位量あたり」の考えで、いろいろな量を比べることができるようにさせる。

数 科 学 習 指 導 案

指導者 阿 部 和 夫

6. 展 開

発 問	学 習 活 動	指導上の留意点	資料等	評 価
<ul style="list-style-type: none"> ◦どれがいちばん甘いでしよう 	1.ジュースの甘さについて考え理由を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ◦水の量が同じ場合。 ◦砂糖の量が同じ場合。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦本時の学習の内容とめあてについて確認させる。 ◦水が同量のときは砂糖の量を比べればよいことに気づかせる。 ◦砂糖が同量のときは水の量を比べればよいことに気づかせる。 	かんじュー ス	<ul style="list-style-type: none"> ◦本時の目標がわかったか
<ul style="list-style-type: none"> ◦いろいろな方法で考えよう。 ◦考え方を発表しなさい。 	2.どちらが甘いか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ◦水の量も砂糖の量もちがう場合。 ◦個人で考える。 ◦グループで話し合う。 ◦グループの考えを全体に発表し、解き方を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> •砂糖1gあたりの水の量で比べる。 •水1ccあたりの砂糖の量で比べる。 •その他 	<ul style="list-style-type: none"> ◦異なった内容を比べる場合には、単位量あたりの考えが有効であることに気づかせる。 ◦二つの量のうちどちらをそろえてもよいが、それぞれの場合の特徴をおさえる。 	T P コップ 砂 糖	<ul style="list-style-type: none"> ◦一方の量をそろえて比べることができたか。
<ul style="list-style-type: none"> ◦問題を解いてみなさい。 	3.単位量あたりの考え方を 知る。 4.練習問題を解く。 5.次時への予告	<ul style="list-style-type: none"> ◦単位量あたりの考えを定着させる。 ◦解けなかった児童は個別指導する。 	T P	<ul style="list-style-type: none"> ◦単位量あたりの考えで計算できたか。

1. 題 材 ほ の お

2. 趣 旨

- 5年の学習において、物が燃える現象を回りの空気との関係で調べ、物が燃えるとき空気中の酸素が使われ二酸化炭素ができることや、これらの気体の性質および空気のはたらきを理解している。本題材では、それを受け、物が炎を上げて燃える様子を調べ、炎は気体が燃えるときにできることなどを理解させるのがねらいである。
- 児童は、物が燃える現象については日常生活で多く経験しているので、炎に接する機会は多い。しかし、「ほのおは何が燃えているか」（ほのおの正体）という点については、疑問すらもっていない。せいぜい、ろうそくが燃えるのを見ても、ろうそくの芯やロウが燃えていると考える程度である。
- 指導に当たっては、まずろうそくの炎を十分に観察させ、炎を身近なものとしてとらえさせることにより、本題材に興味・関心を持たせたい。また、実験・観察に主体的に取り組めるように、次の3点に気をつけたい。①実験のめあてをはっきりつかむ。②仮説をたて、実験方法をいろいろ考える。③考えを出し合い協力する。そのためには十分な時間が必要になる。その点は、第7校時の利用と学習の流れをずらすことによって解決をはかりたい。

3. 目 標

- 炎は、部分によって色・明るさおよび温度の違いがあることに気づかせる。
- 炎は、気体が燃えるときにできることをとらえさせる。
- 木片を空気の入れ替わらないところで熱すると、燃える気体などが出て、後に木炭が残ることをとらえさせる。

4. 計 画 (9時間)

第1次 導入と計画	1時間
第2次 ほのおの色・明るさ・温度	2時間
第3次 ろうそくの燃え方	3時間
第1時 ほのおの正体は何か考えよう。	
第2時 ほのおの中にあるものを取り出そう。.....	(本時分)
第3時 しんの役割とまとめ。	
第4次 木の燃え方	2時間
第5次 まとめと評価	1時間


5. 本時の目標

- ろうそくの炎は、ロウの気体が燃えている、ということを理解させる。
- 実験の方法をくふうし、協力して実験する態度を養う。

学 習 指 導 案

指導者 津 野 敬 子

6. 展 開

発 問	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等	評 価
<p>○前時学習したことは何でしたか。</p>	<p>1.前時の課題と予想を思い出す。</p>	<p>○簡単に。</p>	<p>T P</p>	<p>○前時の課題を想起し、何のために実験観察するかわかったか。</p>
<p>ろうそくのほのおはどんなものからできているのであろう。ほのおの中にあるものを取り出してみよう。</p>				
<p>○実験・観察をはじめよう。</p> <p>○結果について話し合おう。</p>	<p>2.実験方法・準備をグループで確認し、実験・観察する。</p> <p>3.結果について考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話し合いをする。 ○ノートにまとめる。  <p>・よく燃える煙(気体)はどの部分から出ているか調べる。</p>	<p>○時間のめどを知らせその間は自由にさせる。</p> <p>○個人→グループ→全体思考へ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由を考えさせることにより、思考を深めさせる。 ・ほのおの色、明るさ、温度の学習と関係づけて考えさせる。 	<p>ろうそく ろうそく たて ガラス管 はりがね 注射器 マッチ など</p>	<p>○協力して実験しているか。</p> <p>○ロウの気体が燃えていることを実験からとらえられたか。</p>
<p>○しんはなぜあるのだろう</p>	<p>4.ロウだけでも炎を出して燃えるか考える。</p>			
<p>ろうそくのしん(芯)がなくても、ロウはほのおを出して燃えるだろうか。</p>			<p>ロウのか たまり</p>	
<p>○予想をし、実験方法を考えよう。</p>	<p>5.予想をし、実験方法を考える。</p> <p>6.本時のまとめと次時予告を聞く。</p>	<p>○前の実験結果をふまえて考えさせる。</p> <p>○いろいろなアイデアを出させる。</p> <p>○実験に必要なものを各班で用意させる。</p>		

1. 教科・題材 5年国語 … わらぐつの中の神様 6年算数 … 組のつくり方

2. 趣 旨

本学級は5年生6名、6年生4名の10名の聴覚障害をもつ児童によって構成されている複式学級である。聴力損失の程度や、表出言語の障害（発音・構音等）の程度もさまざまであるので、比較的言語を使うことの少ない算数・理科等を好む傾向がある。ドリルによる漢字書写力や計算力等は、学年に応じた学力がほぼ定着しており、熱心に継続学習を行っている。しかし、健聴児に比べて語彙量が少なく、助詞・副詞の使い方に誤りがあったり、能動と受動が逆になったりするため文意が捉えにくい。日常の会話や学習発表も聞き取りにくく、又言いにくい現状である。そこで視聴覚教具の活用によって理解を助けたり、身体活動、身体表現等を通して学習をより定着させるようにしている。

○5年の「わらぐつの中の神様」は、雪国、朝市と静かで美しい自然を背景に、人と人との温かい心の触れ合いが描かれている。長文を読みこなすことは困難ではあるが、おみつさんとわかい大工さんとのわらぐつを中心にした二人の動き、表情・会話等を豊かに想像させながら、心の交流の温かさを味わわせたい。そして、真の価値を見つめて生きようとした所に二人の結びつきが生まれたことから、本学級児童なりに物のぬうちについて新しい示唆が得られればと考える。

○6年の「組のつくり方」は、平素野球チームの組み合わせ等で児童にも経験があり、興味深い題材である。単に場合の数を数えるのではなく、すべての場合を落ちや重なりのないようにするために順序よく整理して組み合わせるという考え方とその方法を身につけさせることをねらいとする。場合の数の調べ方を日常生活の場に役立てるきっかけともなるので、各自の工夫を生かしながら、能率的・合理的な組み合わせ処理の手順を身につけさせたい。

3. 目 標

- 人物の心の動きや状況を読みとらせ、心の触れ合いの温かさを味わわせる。
- それぞれの人物の気持ちになって音読させる。
- 物語に親しみ、進んで読もうとする態度を育てる。

- 簡単なことがらについて、場合を順序よく整理して、そのすべてをあげたり、その数を求めたりすることができるようにする。

4. 計 画 （12時間）

- 第1次 全文を通読し、新出漢字、難語句を調べる。…………… 2時間
- 第2次 場面ごとにくわしく読み味わう…6時間
 - 第1時 なぜわらぐつの中に神様がいた話をおばあさんははじめたのだろう。
 - 第2時 おみつさんはどうしてわらぐつを作ったのだろう。

（7時間）

- 第1次 場合の数の調べ方…………… 5時間
 - 第1時 本学級での野球チームや新聞づくりのチームの組み合わせを考える。
 - 第2時 4つあるいは5つの中から2つをとって組を作る。…（本時分）
 - 第3時 n個より（n-1）個をとって

国語・算数科学習指導案

指導者 沢田 映子

- 第3時 朝市でわらぐつを売っているおみつさんの気持ちはどう変わっていったか。…………… (本時分)
- 第4時 なぜ大工さんは、おみつさんのわらぐつを買うのだろう。
- 第5時 大工さんが、おみつをおよめにほしと思ったのはなぜか。
- 第6時 おみつさんたちはその後どうなっただろう。
- 第3次 物語の主題について話し合い、感想を書く。…………… 2時間
- 第4次 物語を読む。…………… 2時間

- 組を作る。
- 第4時 3つのものの並べ方と3つの中から2つをとって並べる並べ方とその場合の数を考える。
- 第5時 4つのものの並べ方と4つの中から2つをとって並べる並べ方とその場合の数を考える。
- 第2次 問題 …………… 2時間

5. 本時の目標

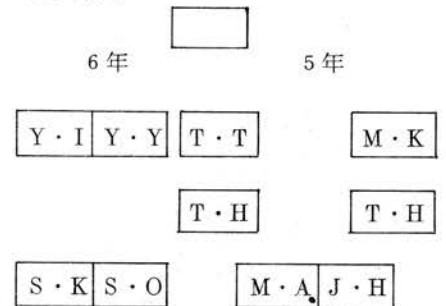
○おみつさんのわらぐつが、わかい大工さんに買い取られるまでのおみつさんの心の明暗を会話を手がかりに読み取らせる。

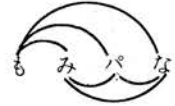
○4つあるいは5つのものの中から2つを選ぶ時、落ちや重なりのない組み合わせの手順や方法を理解させる。

〈参 考〉

学年	性別	氏 名	平均聴力損失		ことばの調査 (助詞副詞接続詞)
			右	左	
5年	男	M・A	88dB↓	87.5dB↓	56
		ㄥ T・T	76dB	89dB↓	32
		ㄥ T・H	89dB↓	90dB↓	40
	女	M・K	90dB↓	90dB↓	82
		ㄥ T・H	90dB↓	90dB↓	20
		ㄥ J・H	73dB	74dB	68
6年	男	Y・I	86dB↓	89dB↓	74
		ㄥ S・O	81dB	86dB	68
	女	ㄥ Y・Y	86dB	85dB↓	56
		S・K	87dB	89dB↓	68
6年1組 (健聴児)平均					87

(座席)



指導上の留意点	学習活動	学習活動	指導上の留意点																																			
<p>朝市でわらぐつを売っているおみつさんの気持ちは、どう変わっていったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ゆっくり、口の形を正しくあけて発音できるように注意させる。(H・T児) ○ おみつさんの希望にふくらんだ気持ちを想像させる。 ○ 文末表現に注意させる。 ○ 場面の展開を会話によってより具体化させ、的確にとらえさせる。 	<p>(補聴器の点検をする)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時学習場面を音読する。 2. わらぐつを持って朝市へきたおみつさんのようすを話し合う (切りぬき絵) (わらぐつ T・P) 3. わらぐつはすぐに売れたらどうか、売れるまでのようすを客とおみつさんの会話を書きぬいて調べる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前時考えた新聞チームの組み合わせを各自シートに書いて発表する <p>I, O, Y, Kの4人を2人ずつAB2つのチームにわける</p> <p>(T・P)</p> <p>4種類のものから2種類を組み合わせる時、できるだけ多く、正しく選ぶ方法を工夫しよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. もも、みかん、パイナップルのかんづめから、2種類の組み合わせをする。 <p>○ はじめの1つの選び方選んでいく順序を考える。(表 TP)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各自自由な形式で組み合わせたものを見せ合い、方法や結果を比較させる。 ○ Aチームの組み合わせを考えれば、自然にBチームが決まることに気づかせる。 ○ 図や表を使って、落ちや重なりが出ない方法を考えさせる。 ○ 2種類のうち、まず1つをきめ、相手をさがす。 ○ はじめの1つも順序をつけて(左から)きめると落ちや重なりがなく、早く選べることを理解させる。 																																			
<p>(お客)</p> <p>「いやよかったでね。」</p> <p>「それわらぐつかね、わらまんじゅうかと…。」</p>	<p>(おみつさん)</p> <p>「わらぐつはどうですぬ。」</p>	<p>図</p>  <p>表</p> <table border="1" data-bbox="782 1478 1005 1702"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>も</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>み</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ぱ</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>な</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>		1	2	3	4	5	6	も	○	○	○				み	○			○	○		ぱ		○		○		○	な			○	○	○	○	
	1	2	3	4	5	6																																
も	○	○	○																																			
み	○			○	○																																	
ぱ		○		○		○																																
な			○	○	○	○																																

<p>(わかい大工さん) 「見せてくれない。」</p> <p>「おまんが作んなったのかね。」</p> <p>「よし、もらっところ。」</p>	<p>「あんまりみっともよくねえわらぐつで。」</p> <p>「初めてで、うまくできねかったけど。」</p>	<p>3. P 53 ③を考える</p> <p>○ A B C D E の 5 つの野球チームが、どのチームとも 1 回ずつあたる組み合わせ</p>	<p>○ 5 種類の場合、図は線が複雑になるので活用しにくいかもしれないが、表の利用とあわせて正しく組み合わせができるようにする。</p>
<p>○ 客のことばで、おみつさんの期待がどどんうすれていくようすを読み取らせる。</p> <p>○ やっぱり、あきらめて、がっかりして、おずおずと等気持ちを表すことばをしっかりとらえさせる。</p> <p>○ 個々の話す力に応じて楽しく、大工さんやおみつさんの会話を表現させる。</p> <p>○ あきらめていたおみつさんの喜びの大きさ(おがみたいほどの気持ち)を想像させる。</p>	<p>4. おみつさんの気持ちの変化を、会話のやりとりをしながら想像し、話し合う。(T P)</p> <p>○ 客 1・2 と</p> <p>○ わかい大工さんが来て</p> <p>○ 「もらっところ。」と言われて</p> <p>5. この日のおみつさんのようすを、物語につづけて創作する。</p>	<p>○ 図を — で結ぶ</p> <p>・ 表の活用</p> <p>○ 6 種類のものから 2 種類を組み合わせる場合はどうか。</p> <p>4. 結果を話し合う</p>	<p>○ 5 種類の中から 2 つを選ぶ場合でも、選ぶ手順をふまえていくことが大切であることに気づかせる。</p> <p>○ P 53 ③ の発展学習として、能力に応じて取り組ませる。</p> <p>○ 図、表の活用が順序だてて行われたか評価する。</p>



1. 小 単 元 火 の 用 心

2. 趣 旨

- わたしたちはくらしの中で、火を使うことが多いが、ちょっとした不注意からそれが火事につながることもある。火事のおそろしさを知り、防火に気をくばったり、火事になった場合どうすればよいか知っておくことは、児童の生活にとっても大切であるとする。
- 本学級の児童は次表の4名であるが、いずれも火事を実際にみた経験はなく、消防自動車については、全員が赤い車という認識にとどまっている。はしご車等の絵本をみせると「かっこいい」と興味を示す。しかし、「火の用心をしなければならない。」とか「自分の家が火事になったら……。」というような自分の生活とかかわった思考はしていない。

氏名	学年	性別	WISC I Q	児 童 の よ う す
M	6	女	55	「はい」「いいえ」の意志表示はするが反応はおそい。社会常識は殆んどない。
K	4	男	56	明るく多弁であるが、読み書きの能力は劣る。
N	4	男	76	遊びにも勉強にも意欲がなく、学習時も沈みがちである。発音不明瞭。
T	1	女	70	読み書きはぼつぼつできるが動作はおそい。時々放心状態となる。

- そこで11月26日から始まる「秋の火災予防週間」に合わせて、自分たちが火事をおこさないためには何に気をつけたらよいか、また火事になった時どのような行動をとるか、各自の生活への働きかけに重点をおいて学習させたい。さらに、火事を消しにきてくれる消防士の働きや、消防署のようすについても、目をむけさせたい。

3. 目 標

- 火事がおきると、家や物が焼けてしまうだけでなく、人も焼け死んだり、けがをしたりすることがあるという事実をとおして、火事のこわさを切実にとらえさせる。
- 火の用心のし方や火事の時の身の処し方を、話しあいや動作化をとおして身につけさせる。
- 消防署へ見学に行くことによって、消防署のしくみや消防士の仕事のおよそをつかませる。

4. 計 画 (9時間)

- 第1次 こわい火事 4時間
 - 第1時 火事の話 絵本をみて話を聞いたり、見聞して知っていることを話しあう。
 - 第2時 こわい火事 スライドをみて話しあう。
 - 第3時 火の用心 「火事の原因の絵グラフ」より考えて火の用心のし方を話しあう。
 - 第4時 もし、火事になったら..... (本時分)
- 第2次 消防のおじさん(見学) 3時間
- 第3次 消防かるたを作って遊ぼう(まとめ) ... 2時間

5. 本時の目標

- もし火事がおこった時、どうすればよいかを、動作化によってつかませる。

学習指導案

指導者 小笠原 一 恵

6. 展 開

発 問	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等	評 価
<p>○もし、火事になったらどうしますか。</p> <p>○消防のおじさんはどこにいますでしょう</p>	<p>1.火事のおそろしさについて話しあう。</p> <p>2.火事になった場合を考えて、どうするか話しあったり動作化したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水をかける ○にげる <ul style="list-style-type: none"> ・どの方向へ——入口 ・煙をすいこまないように。 ○近くの人に知らせる。「火事だあ。」 ○消防署に連絡する。 <ul style="list-style-type: none"> ・119番に電話する。火事です 場所は……です。 ・火災報知機をおす。 <p>3.消防署に見学に行くことについて話しあう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○火事のスライドをみせて今までの学習をおもいおこさせる。 ○その時の状況を判断して行動できるようにさせる ○火元がごく小さく初期の場合にかぎることをわからせ、危険な場所からすばやく遠ざかることの大切さをわからせる。 ○大きな声を出させる。 ○火事になると消防自動車が自動的に来るのではないことをわからせ、電話模型を使って電話のかけ方をおぼえさせる。 ○火災報知機については、補足説明をし、いたずらにおさせないようにする ○消防自動車や消防士の絵をみせて、関心を深めさせる。 	<p>S L (火事)</p> <p>T P 社-2 -12-4</p> <p>電話模型</p> <p>S L (火災報知機)</p> <p>絵 消防自動車 消防士</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○大きな声が出せたか。(発音直視装置) ○119番をおせたか。

1. 題 材 カード遊び

2. 趣 旨

- 2年男子、右手の指は神経が麻痺していて鉛筆が持てない。右足も虚弱でびっこをひいている。口唇や舌の動きも鈍く教師の動かす舌のまねができない。学力は同学年の児童より少し遅れている。常識についてもやや貧弱ではあるが日常会話や行動にはあまり遅れを感じさせない。現在のおもな障害音は「さ、ざ、ら行」の各音である。このほかに歪みを感じる音がたくさんあるが、これは今まで正しく発音できなかった音が、正しい発音に近づく過程の音で中には注意をすれば正しく発音できる音もある。

会話中発音不明瞭のため意味が理解できなくて何回も尋ねることがある。3～4回は言いなおして教えてくれるが、それでもわからない場合は「あほか」と言返す陽気さがある。

- 自分の発音が友だちと比べて少し変わっていると言う程度には感じているが、それで困るとか恥かしいとかは思っていないようである。練習の効果を上げるにも本人が練習の必要を感じ意欲を燃やさなくてはならない。周囲の者の接し方にも一考を要するものがある。構音学習は5～6時間を練習の一単位とし、その音がうまく発音できなくても次の音の練習に進む。繰り返し練習をするうちに正しい発音ができるように導きたい。
- 「ら行音」の子音部の構音は舌先を硬口蓋に軽くつけ呼吸を貯めて舌先を離すと同時に発せられる弾音である。ウエハースを使って舌先をつける位置を教えたり「だ行音」との舌先の使い方の違いをわからせる。また自分の発音が違うことに気づく耳を育てることも大切である。

3. 目 標

- 子音部「r・d」の構音点の違いがわかり、「r音」を発する要領を会得する。次は子音に母音を続けて出す練習をする。「ら行音とだ行音」が少しでも聞き分けられる発音をさせる。
- 「ら・だ」「れ・で」「ろ・ど」教師の発音は正しく区別して聞き分けられる。しかし自分の発音は全部「だ行音」に置き換えられているがそれには全く気づかない。文字表現をしても正しく書けるため誤りの自覚を遅らせる。発音の誤りが自覚できるよい耳を育てたい。

4. 計 画 (6時間)

第1次 聞き分けと子音の発音練習 …… 2時間

第1時 多くの単音の中から聞き分ける。子音の舌をつける位置を覚える。

第2時 多くの単音の中から「ら行音」を聞きとる。(ら行音の刺激強化)

呼吸を貯めて舌先を離し「r音」を出す練習をする …… (本時分)

第2次 単語、短文の読みのなかで単音の発音練習をする …… 4時間

5. 本時の目標

- 「ら行音」の聞き分け練習(刺激)をして「ら行音」に耳なれさせる。
- 「r」の構音のしかたをわからせ正しい発音に近づくよう工夫し練習させる。

音 構 音 学 習 指 導 案

指導者 三 木 や す こ

6. 展 開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等	評 価
<p>1. 多くの単音の中から「ら行音」を聞きとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 聞こえたら動作で反応する。 おはじき 小旗 ついたて ○ さかさまことばを聞いて絵カードを取る。 <p>2. 子音「r」の発音練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 口唇や舌を速く動かす練習をする。 ○ 舌を出したり入れたり、その他指示通りに動かす。 ○ 教師の舌の位置や動かし方をよく見る。 ○ 硬口蓋にウエハースをつけて舌の位置を確認する。 ○ 「r・d」の構音点の違いをはっきりさせ実際にやってみる。 ○ ためた呼吸を出すと同時に舌を離して子音を出す要領を会得する。 ○ 教師の発音と聞き比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 母親と一緒にさせて正確さ速さを競わせる。 ○ 興味を持たせるために反応の方法を変える。 ○ 1回には種類の音を聞き取らせる。 ○ ゆっくりと1音ずつ発音して聞かせまねをさせてから取らせる。 ○ 正確に発音できる音を連続で乱れないように速く言わせる。 ○ 教師のまねをさせる。 ○ 口唇につけたウエハースを鏡を見ないで1回で取らせる。 ○ 大きな口をあけてよく見えるようにしてやる。 ○ ウエハースはつけてやったり自分でつけさせたりする。 ○ 舌先を前歯茎や硬口蓋につけて見せる。 ○ 鏡を見せて舌先が上へあがっているか確かめさせる。 ○ 教師の舌を見せたり、注意を与えたりしながらくり返し練習させる。 ○ 交互に発音し録音する。 	<p>テープ 反应用具</p> <p>絵カード</p> <p>ウエハース</p> <p>鏡</p> <p>R・M</p>	<p>速く正確に聞き取れたか。</p> <p>「らとだ」の構音点の違いがわかったか</p> <p>d → r に近づいたか。</p>